



羣書一覽

六





群書一覽卷之六

地理類

日本風土記 字本

五十卷



續日本紀卷之六曰元明天皇の和銅六年五月甲子畿内七道の諸國
小制て郡郷の名好字カウシ著其郡内は生ずるところの銀銅彩色草木會
 獸魚蟲等の物具は色目録し及び土地の沃墾山川原野の名號
 の由々ろろ又古老相傳つる舊聞異事史籍を載く言とせしむる○本
 朝書籍目錄は風土記の扶桑略記をりる○今并似爾方葉
 緯に今案ずる元正天皇風土記の端はひきたりしりる○
 撰進の文は又或りり仁明帝これ撰したりし延喜の時全
 備りしりる○
 史籍に載ぶるの出雲國の風土記は至る卷末に書しりる○天平
 五年二月廿日これ撰造す○此間これを勘造す○

群書一覽 和書部六

るく六十箇國に配當らるるは元弘建武より日本騷亂の
際、同なり就中は土佐の依仁文明の大乱に洛陽の
東夷西戎の入り其勢殆卅万騎に及べりしを以て
室記録等大半滅らるる此の依仁風土記も失て
彼に搜出さるる十卷に止るなり其の
事下り○雅嘉格下り朝野群載卷二十一諸國召風土記官符
を載て大政官符五畿七道諸國司

應早速勘進風土記事

右如聞諸國可有風土記文令被左大臣宣仰國宰令勘進之若
魚底搜求部内尋問古老早速言上者諸國承知依宣行之不得
延廻符到奉行參議左大辨後四位上兼行讚岐權守源朝臣恒外
後五位下行右大史阿部宿禰忠行

延長三年十二月十四日

されば諸國より勘進せし風土記の残篇の今もなすも

又好事のもの偽作して残缺ありてあはれ今井氏の記乃
古書にも引用し風土記の記もなほ拾ひあつたりと
かゝる残篇ありて其眼のくはるる真偽もあはれ風
土記の残篇ありて其眼のくはるる真偽もあはれ風
土記の残篇ありて其眼のくはるる真偽もあはれ風
土記の残篇ありて其眼のくはるる真偽もあはれ風

日本惣國風土記卷第五 山背之世郡 一卷

真書云々右山城國久世郡風土記總残十一程千百雖數之無念也漸以雨
院大臣之藏本引合官本校合之畢嘉慶二年六月中旬左羽林即藤原之隆
山城國風土記 一卷

真書云々山城國風土記三郡葛野郡紀伊郡久世郡分者以權少外記中原朝
臣師之所持之本子之畢關文重食嵐糞之難魚是非者也永祿
元年十二月三日熊野山僧良快書判
日本惣國風土記第六 一卷

奥書之右之風土記者山城國宇治郡之餘卷也。嘉慶二年乙丑四月下旬左中將藤原元隆

日本惣國風土記第二 大和國 一卷

奥書之右風土記殘冊十七冊之内大和國今度以台命之故訂正字者也。寛文十年庚戌二月望大納言源通村在印

日本惣國風土記第十六 大和國宇治郡殘缺一卷

奥書嘉慶二年藤原元隆

日本惣國風土記第十七 大和國平群郡殘缺一卷

奥書同上

日本惣國風土記第四 和泉國 一卷

奥書之右一卷脱落錯簡不少。惟以字本不違一字書字者也。文和元年壬辰四月十五日朝散大夫中原師行在判 寛文十年源通村

日本惣國風土記第二十九 和泉國日根郡殘缺一卷

奥書之右風土記之藤大納言高基卿家本校合畢。文和元年中原師行日本惣國風土記攝津國有馬郡 一卷 奥書藤原元隆

風土記第二 伊賀國 一卷

奥書之右二年三月下旬權少外記中原忠胤在判 同異本 一卷

奥書 文和元年中原師行 寛永十年源通村

伊勢國風土記 貞辨郡殘缺端四行虫喰 一卷 奥書中原師行

風土記 伊勢國桑名郡員辨郡度會郡殘缺 一卷 奥書魚名

風土記 尾張國 一卷

奥書之右以伊勢長官蓮明院家本字之畢為袖珍可秘者也。權少外記中原清職在判。文龜元年辛酉五月十二日。又云尾張國風土記全部。以覺勝院僧心御本字之畢。雖然虫喰脱落間。大災等。魚是非事。於十住心院心敬判。大永四年甲申三月廿七日。又云右之風土記。二卷。羅大史。重食。總為一冊。而漸繕。字即為袖玉。惜哉。脱落間多。而亦難。關丹。智多山。田春日部愛智之五郡。唯期。後來。同字。而已。弘治三年丁巳五月廿四日。權大官司富成判。

日本總國風土記第十九 參河國室飯郡 一卷 奧書同國
 日本總國風土記第四十 三河國八名郡 一卷 奧書藤原元隆
 日本總國風土記第四十六 遠江國伊波多郡殘缺 一卷 奧書仲原師行
 日本總國風土記第五十三 葛河鳥渡郡殘缺 一卷 奧書同上
 日本總國風土記第五十四 葛河伊藤原郡殘缺 一卷
 奧書同上 又云右風土記以舟橋秀賢家本字之畢明曆第二丙申
 日本總國風土記第五十五 葛河安井郡 一卷 奧書師行 通村
 日本總國風土記第五十六 葛河軍郡 一卷
 奧書文和二年仲原師行 又右風土記以舟橋秀賢家本字之畢明曆
 二丙申被聽之書字之畢右宮家之制書也 中原職忠 又云右風土記
 河郡部以野村宗竹子本與中原職忠入道萃菴翁家本校合畢一
 年戊戌五月下旬交野内匠頭 後水尾院御書庫奉行也在判
 日本總國風土記第五十六下 葛河國葛河郡殘缺 一卷 奧書中原師行
 日本總國風土記第五十七 葛河國益頭郡殘缺 一卷 奧書同上

日本總國風土記第五十八 葛河國止駐郡殘缺 一卷
 奧書文和元年中原師行明曆二年中原職忠 万治元年 文野内匠頭
 日本總國風土記第六十一 甲斐國八代郡殘缺 一卷 奧書中原師行
 日本總國風土記第六十三 甲斐國巨摩郡 一卷 奧書左中將元隆
 日本總國風土記第六十四 甲斐國都留郡 一卷 奧書同
 日本總國風土記第七十 相模國高座郡殘缺 一卷 奧原藤原元隆
 日本總國風土記第七十四卷 相模國足柄郡殘缺 一卷
 奧書中原師行 中原職忠 文野内匠頭
 日本總國風土記第七十九 武佐志多摩郡殘缺 一卷 奧書師行職忠
 日本總國風土記第七十九 武藏國足立郡 一卷
 奧書云右武藏國風土記足立郡之分以菅黃門家本與日本校合了
 惜哉脫誤漏紙多而失素書專備出之羊而已 文明八年丙申三月
 下旬一條 藤原兼久 又云武藏國足立郡之風土記一卷以庭田羽林
 之家本字之畢 元龜元年辛未二月下旬清二位宗利 又云右之風

土記云々以舟橋吏部之本與中家之本并合官本校合了所惜脫簡耳
而錯誤多焉寬永八年仲夏初二文野兵部侍郎書之

日本總國風土記第七十七卷 武藏國荏原郡殘缺一卷 奧書藤原元隆

日本總國風土記第八十三卷 武藏國荏原郡殘缺一卷 奧書藤原元隆

日本總國風土記第八十四卷 武藏國豐名郡殘缺一卷 奧書師行 内匠頭

日本總國風土記第九十五卷 安房國千群郡殘缺一卷 奧書藤原元隆

日本總國風土記第九十二卷 上總國長柄郡 一卷 奧書同上

日本總國風土記第九十一卷 下總國相子郡 一卷 奧書同上

日本總國風土記第九十卷 下總國相子郡 一卷 奧書同上

日本總國風土記第九十卷 常陸國筑波郡 一卷 奧書同上

日本總國風土記第九十卷 常陸國筑波郡 一卷 奧書同上

日本總國風土記第九十卷 常陸國筑波郡 一卷 奧書同上

日本總國風土記第九十卷 常陸國筑波郡 一卷 奧書同上

日本總國風土記第九十卷 常陸國筑波郡 一卷 奧書同上

日本總國風土記第九十卷 常陸國筑波郡 一卷 奧書同上

日本總國風土記第九十卷 常陸國筑波郡 一卷 奧書同上

日本總國風土記第九十卷 常陸國筑波郡 一卷 奧書同上

日本總國風土記第九十卷 常陸國筑波郡 一卷 奧書同上

群書一覽 和書部六

天正二癸酉三月二十日權少外記中原忠胤在判 又寬文十年庚戌六月十八日大納言源通村在判

日本總國風土記第九十四卷 陸奥國名取郡 一卷 奧書藤原元隆

日本總國風土記第九十六卷 陸奥國宮城郡 一卷 奧書同上

日本總國風土記第九十二卷 加賀國加賀郡 一卷 奧書同上

日本總國風土記第九十四卷 加賀國石川郡 一卷 奧書同上

日本總國風土記第九十卷 但馬國出石郡 下郡養父郡美含郡等 一卷 奧書中京師行 源通村

出雲國風土記 二卷

卷末書云々天平五年二月廿日勅造之云々○按云々此兩卷の風土記の中の今く残さるものなり天平五のハ元明天皇の諸國の風土記が撰せられ和銅六のハ二十のハ一のハ醍醐天皇の官符が以て諸國の風土記が召出され延長のハ百九十二の前なり和銅より延長まで二百年をうけ向より早く亡失するものなり

山州名跡志

二十二卷二十五卷 山内白惠

全編片假字に記せり。元禄十五年三月自序に云く、
 盛に洛下を多し棲遊す。久しくその史録を因りて
 慨然と云ふ。當州の名境荒廢す。其の遺蹟を
 記の委し。其の故に傳説を考へ。因りて其の
 蹟に到る。其の由を感ず。其の徳を人視が。其の
 まゝに其の輯録す。周覽の同覽之。二十餘宿。其の
 卷之一 凡例 平安城興基 山城八郡方位圖 八郡封境
 卷之二 愛宕郡祇園 清水坂寺 卷之三 同郡 清水寺 泉涌寺
 卷之四 同郡 建仁寺 百万遍園 卷之五 同郡 向合 静好寺
 卷之六 同郡 葛野郡 松崎 杉原野 卷之七 愛宕郡 大宮 森 雄
 卷之八 上葛野郡 小野 水尾 卷之九 同郡 小倉山 大江坂
 卷之十 乙訓郡 西丘 山崎 卷之十一 葛野郡 訓郡 紀伊郡 西院 古畑
 卷之十二 紀伊郡 一橋 木幡 卷之十三 同郡 各郡 櫻喜郡 櫻喜郡 橋

山城名勝志

二十二卷三十卷 本園十二鋪 大島武好

山城一國の事蹟を古書に引く。これに證す。其の引く。其の書の系
 其の引書七百十三部。及び考索蒐輯す。元三十年
 序中、元、〇每卷故位二六位源朝臣武好輯編と云せり

群書一覽

和書部六

卷之十四 宇治郡 日岡 卷之十五 同郡 久世 郡 粟 郡 宇治 郡 宇治 郡

卷之十六 久世郡 綴喜郡 相樂郡 巨摩郡 笠置 卷之十七 洛陽部

卷之十八 殿舎部 卷之十九 大内裏部 卷之二十一 洛陽寺院

卷之二十二 洛陽神社 〇此書每卷 瑜珈林 隱士 如是相 白惠 撰と云せり

卷首に宝永辛卯春國子余酒林 蕙の序に云く 卷末に宝永初元丹水奇岩の

隱士 碩星の跋に云く 山州名跡志ハ 備白惠の撰す。其の引く。其の書の系

又如相山雲子と号す。姓ハ坂内代ハ 武藝好以て。其の引く。其の書の系

其の引書七百十三部。及び考索蒐輯す。元三十年

序中、元、〇每卷故位二六位源朝臣武好輯編と云せり

卷之一 宮城部 同卷より卷之五まで 洛陽部 卷之六 し訓部
 卷之七より卷之十まで 葛野郡 卷之十一より卷之十五まで 愛宕郡
 卷之十六 紀伊郡 卷之十七 宇治郡 卷之十八 久世郡
 卷之十九 綴喜郡 卷之二十 相良郡 卷之二十一 郡未勘部
 附圖十二鋪
 總圖 一鋪 東西兩京圖 一鋪 八郡圖 八鋪 大内圖 一鋪
 八省院豐樂院圖 一鋪

○卷首より永し西年筑前、貝原篤信の序に「汝は汝の平安城記の撰
 文のす巻尾に武奴假字の自跋ありて依之を初稿とす

京城勝覽

二卷一本 貝原篤信

一名京都市めぐりと稱す洛中洛外毎日見物の案内京町小路乃由來洛
 中の名所古跡等細々と其つくりをりて拾遺の八永室大悲山
 岩屋田原松崎津國島上郡八名所旧跡松崎寺の室永二年篤信
 の自序より凡ふの都の内外の各區概のこころを比かり陳述其の如し

布... 京都... 洛中洛外... 見物の案内... 京町小路... 乃由來洛
 中の名所古跡等細々と其つくりをりて拾遺の八永室大悲山
 岩屋田原松崎津國島上郡八名所旧跡松崎寺の室永二年篤信
 の自序より凡ふの都の内外の各區概のこころを比かり陳述其の如し

山城志

十卷九本 並河水

日本輿地通志畿内部分六十一卷の中第一卷より第十卷に至る書體漢
 土の地志... 漢字... 証... 和歌... 引... 左... 右...
 城池 壇廟 山陵 苑園 百官 山川 關梁 土産 神廟 陵墓
 佛刹 古蹟 氏族 建置沿革 府治 疆域 形勝 風俗 祥異
 租稅 鄉名 村里 公署 藩封

○此日本輿地通志ハ並河永俗称五郎友入越前の国祖衡群書
蒐訪シツ——くこれ野老ヤノラの語一書作く地志チシ擬ニギせし
るの書成シタは御ミカド疾革ハヤシキなり一吋五郎トウゴロウの託トクくこれ後ノチの
御ミカド公キミの思命シノミコトの蒙カシコりて五畿内イセノチの巡視ジュンシ一五郎ゴロウの歴レキく
業ノリの率ノリのりて卷首クワンソウの名ナのりて越州セツシュの祖衡ソウベ纂輯サンキツ丹州
并河永校ナガノのりて卷首クワンソウのりて丹州タニシュの友トモのりて丹州タニシュのりて
卷首クワンソウの上書ウラカキのりて奥ウラの享保十九年甲寅二月丹州書生タニシュノシヤウシヤウ並河永謹ナガノノヒツ書
くシとセリ

大和志

十一卷七本 同上

日本輿地通志畿内キノチ部卷十一キノチノチ至キノチノチ享保丙辰の春上
木キ

河内志

十七卷二本 同上

和泉志

五卷二本 同上

攝津志

十三卷四本 同上

輿地通志卷四十四キノチノチ至キノチノチ享保丙辰春上本す
本キ以キ五畿内イセノチ志シ稱キョウす○多田義俊タタノヨシトシらびや卓タクと云并河五郎ナガノのりて
五畿内イセノチ志シのりて書シのりて板行イタダキのりて彼書カノシヤ誤アヤマり大和志
吉野ヨシノの条ジョウは鯉ニギハヤヒ腹ハツ赤アカ奏ソウの故事コトワザとす腹赤ハツアカ肥後ヒノエより献ケンとく吉野
のりて八献ハツケンせず通説ツウセツ轉マシなりと云ト師遠シロトの年中行事ナカノトシノコトワザのりて尊ミコトよ
のりて大奥オホウチのりてく爾陪ニルヘイのりて奥ウチなりと云ト壺井ヒラノ公キミ羽ハネの帝ミカドのりて
のりて日羅ヒラの將軍シヤウジュンめと云ト職シヨクのりて僧ソウのりて日本書紀ニッポンノキ鑑カン明メイ
の卷クワンよりクワン一イチ元亨ゲンキヤウ釋書シヤクシヤウの僧ソウのりて道春ミチハルの僧ソウのりて神社
考カウのりてハハのりて太子傳タチノデンのりて道春ミチハルの僧ソウのりて太子傳タチノデンのりて
卷クワンの平氏傳ヘイシノデンのりてハハのりて又同國名マツリノナ鑑カンの教行寺キヤウキヤウノテのりて条ジョウ下ゲ
蓮レン如此寺コノシのりて教行信證キヤウキヤウシヤウジヤウのりてある此コノのりて親鸞シンラン聖セイのりて

卷十六 名物 土産
元禄十四年上木寸

卷十七 雜類 名木 名石等

浪速上古圖說

一卷 附圖 中村直躬

神武天皇御宇より應神帝の御宇に至るまでの地形仁徳帝御宇より安閑帝御宇に至るまでの地形仁徳實錄萬葉集等引く考へたり。○寛政七年武庫春海序に同十二年三月上木寸

難波舊地考

一卷 荒木田久老

卷首に堀乃落葉高津宮長柄宮長柄橋舊地考と記せり。○此の津國有馬のゆかりあり。往古より温湯の浴せり。人々此詩歌連歌和漢此文草等ゆかり載下巻より有馬より近國より了路程松記す

有馬事跡考

二卷

津國有馬のゆかりあり。往古より温湯の浴せり。人々此詩歌連歌和漢此文草等ゆかり載下巻より有馬より近國より了路程松記す

作者つぎつぎ

有馬山温泉記

一卷 貝原篤信

京都より津國有馬御湯山より行乃行乃有馬山永八山月刻

士峰録

六卷 菅徳菴

駿州富士山より保志詩歌和文漢文等採録す歌八万葉集二十一代集拾遺愚草堀川百首より怪高道春等代作まが城のせ和文八古今集乃序竹取物語等の全文採録す詩文八和人漢人ともよせり菅氏二男由益洞雲の跋あり

新編鎌倉志

八卷 十二本

西山公常陽より江都に至る鎌倉志名勝歴覽一に河井友水河内より鎌倉志加の古祠舊寺より以て里巷荒村は遠くく葛葉の言はも曾阿の河内載りて書目中に

松村清之伯胤父考訂 力石忠一叔貫參補とある

首巻 鎌倉事蹟の大意のわけは鶴岡の来由なり東北の方

蛇谷の... 己下毎巻一日の行程の量り録... 一冊に

○巻首は鎌倉總目 引書百十九部の目録 鎌倉の圖等とのす。貞

享し且雀山野節の序 甲子小春明の東臯心越の序 甲子姑洗力

石忠一の序等あり。○巻末は貞享二年し且洛下書林柳枝軒茂木方

淑の跋あり

淡海志 附録一卷 写本 共七卷

近江一國のゆかり... 作者つぎ... ず

第一巻より第六巻まで 國号 灘の称号 諸浦舟數 土産 舊都

古戰場 和歌名所 名木 古塚 神社 佛圖等のゆかりのす故

り... 諸書に引く... 證す

附録 近江國誌目録

白濱 蟬丸 志賀 兼平 竹生島 大會 源氏供養 三井寺 関寺

小町 鸚鵡小町 己上百番 望月 鐘引 巴 烏帽子折 己上百番
 今生巴 魚源太 己上二百番 伊吹 笛狂 神惜 トシサガ 木戸巴
 義平 三井水 多賀 伊吹弥三郎 法性坊 唐崎 雪月花
 鶴次郎 注不動 野寺 ツカフシ 八景 粟津原 現在熊坂
 相坂雞 相坂盲 佐々木判官 醒井 草紙源氏 サチ 三井寺禪師
 御輿振 島廻 浄名 慈覚 比良 秀郷 三尾 水尾山 志
 賀忠度 己上十番

信濃地名考

三卷

吉澤好謙

此書一名科野名寄り以信濃國の名に... 古歌四十餘首おもと
 り... 其方角考... 餘多古書と
 引く... 就く地名事實産物等の考... 載...
 舊記... 其下... 土地の古名... 俗名...
 古古牧地の圖等... 編者吉澤好謙信州の... 〇明和辛卯信濃

源通魏の漢字の序 同庚寅安原貞互漢字の序 同八年藤原宇万位
の假字の序等あり

岐 蘓路記

一卷

貝原篤信

貞享乙丑の... 篤信武城より 西帰の村の紀りなり 江ノ下より武藏
上野信濃 美濃 近江五箇國の路程記す 宝永乙酉の自跋あり

あつみ路の記

一卷

上層 河内水記の記 貝原篤信 下層 東遊草 土佐谷重遠

若 耶群談

写本 二卷

若狭一國の... 目録より小濱城より 志松ふるまへ 乙酉
とのす又遠敷太飯三方の地名あり 其外若狭出産の各物八幡宮
佛寺等の... 若狭國稅所今富領主代り 乙酉
貞享乙酉 城主の次第又神社佛寺什物等の... 記す 乙酉
五月一日明空書写の奥書あり 乙酉 按ずる若狭若耶と稱す

但馬温泉記

一卷

貝原篤信

漢土乃地名を擬して假し稱せし 漢土乃若耶溪ハ越州よりいふ
但馬城崎郡湯島の記なり 享保十二年九月篤信ハ湯の村の著作
なり 同十八年十一月上あり

懐 橋談

写本 二卷

出雲一國の... 甚なり... 名所古蹟より俗談の
... 承應二年出雲の國... 此書道す
... 彼の地は食色... 人の... 此書道す
... 母の... 自序あり
... 懐橋談と
... 備前美
... 大概因十
... 作者不詳

新編

廿世

筑前名寄

二卷 貝原篤信

元禄辛未九月篤信真字の自致と云右筑前國の名寄古人の歌詠
小抄たるもの凡六十餘境諸歌集及び古記のしらふと云れ考索す
まゝ又云々各郡の郷邑を巡察して聞かば爰は各向くは及す
河菟輯 編成なりす元禄六年と云す

名所類

名所方角抄

一卷 宗祇法師

國々東西南北より名所は方角抄と云古歌詠引連歌の付合
りたりす寛文六年と云す○按す此書宗祇法師の所記なり是等の
りりし抄を云々其方角抄と云す親切なり今世人は遠き
一國の中より一郡の方隅と云々一國は東西等抄と云す

勅撰名所和歌抄出

二卷 宗碩法師

山嶺萬等より次第し類なり名所はの功なり
連歌用意宗碩法師抄出之分而為上下二冊之凡連歌句合事至
續後撰集可用本歌之由去年重而伺天氣令治定畢於作者

和書部六

至新續古今集可引用之間今所此抄也之 槐陰散人御判 二卷前
内府 凡歌数九百二十七首抄之

歌枕名寄

二十五卷 二十九本 澄月

此書或ハ澄月歌枕或ハ澄月名寄と称す名不代歌枕國分と
度くあつたり 撰集の河津なり 和書の名は載り不
畿内部二卷 東海部五卷 東山部七卷 北陸部一卷
山陰部一卷 山陽部二卷 南海部二卷 西海部二卷
未勘部二卷 總目錄一卷 總計二十五卷多し二十九本也
○外書目録勅撰集古今より新後撰多し目錄の外より引用あり
書枕考あり 萬葉集古今六帖 新撰六帖 現存六帖 六百番歌
合千五百番歌合 仙洞歌合 建保歌合 室治百首 弘安百首
正治百首 堀川百首 野宮十首 懷中抄 明玉集 万代集 習俗抄
良玉集等し ○總目の首より食活計客澄月撰と云せり 又同卷
の終より真字の跋ありとせし 澄月歌枕と云すもの願一様なり

或ハ歌数此二枚ありものありハ名所雜乱なるもの多し信用と
執し 十頃日古本類聚一箇に於てあり人何ぞ披くこれ
何國より澄月歌枕名寄なり 漸く偽り略つたりて歴視す
これハ撰集と則借書といふことありて其の件の舊か因り
てこれ切に附す多し 予時万治二己亥曆夷則中旬城北を食沙弥消瀝子
名所類字和歌 四卷 細川幽齋

代ハ此勅撰集より名所のハ撰集ハあり國ハ何れありと云す
書一ハ小名寄と稱しハ類字小名寄と稱す

類字名所和歌集 八卷 里村昌琢
二十一代集より名所の歌採摘しいろは歌以て名不代と云ふ
の次方よりこれに列す ○卷首より名不國分目錄あり一名大名寄と
り寛文八年法橋昌琢の奥書に於て此書元和と云の編輯に
類字名所和歌集拔書 五卷

本書の中より連歌の付合は便りよく採りてしるものし撰者
つぎの如しなり

類字名所補翼抄 写本 七卷 沙門契沖

昌琢の類字名所の歌ハ二十代集の外に出ず此書ハ萬葉夫木其餘
古物語諸家の集等より彼類字名所の補翼とかりしもの
毎巻に「あゝ契沖のといひし」をせり書入らるる名所の
の考もいらしき甚有益の書也○此書舊名勝地一覽といふ

類字名所外集 写本 九卷 同上

右の補翼抄の外は考へられし歌ども採りてしる諸書採りて
せり此書も毎巻の「あゝ名所の」を採りしもの
あり或ハ古來傳へしもの國の相違せり月名寺松葉集
等にも考へ合せりこれ採りしもの採りしもの採りしもの
が名所の採りしもの採りしもの採りしもの採りしもの
國に採りしもの採りしもの採りしもの採りしもの

松葉名所和歌集 十六卷 宗惠

宗碩が類字名所集のせりし歌ども採りてしるものす二十代集
乃秋の多く類字名所集に載らるる遺りしもの採りしもの
他の諸書より採りしもの採りしもの採りしもの採りしもの
萬葉集 二十代集 古今六帖 現存六帖 新撰六帖 堀川百首
建保百首 藤川百首 神道百首 六百番歌合 千五百番歌合
御裳濯川歌合 宮川歌合 正治歌合 勅撰名所集 新葉集 歌仙
家集 散木集 後鳥羽院御集 六家集 草菴集 方与集
玉計集 類聚名所集 類字名所集 後醍醐天皇千首 為子千首
能因歌枕 大和物語 住吉物語 源氏物語 梁塵抄 八雲御抄
袖中抄 一字抄 撰集抄 懷中抄 夫木抄 七帖抄 春雨抄
題林抄 藻塩草 長明道記等なり ○續松葉集卷之四のす
不の松葉集真書の文と名不なりと云ふ歌よりとくし國乃ち採りしもの
八雲抄の採りしもの採りしもの採りしもの採りしもの採りしもの

名所牛瀧山信貴山飛鳥山品川入向川等城より故わが近現代
諸家の集考へこゝろ引書が奉り向をなすてふものす
名所小鑑 一巻

名所のこゝろはの木青くちく景物なすく連歌自合のあり袖
附せしす採者つすひくなくす
歌林名所考 五巻 西順

奥書と連歌の付合は採用ゆき名所の今こゝろ書出すところ
凡六百所代は採集并に家々集夫木歌枕等より二千六百餘首
種々の景物等足るすまふひく書のすゝものこゝろ
歌林名所追考 十二巻 高野直重

西順が名所考の増補なり
袖珍歌枕 四巻
名所の歌枕いろはくちくちく合せたり上層くまをり
名所題林 五巻 岡西惟中

和歌枕題しめあまき名所の歌枕採りてらつじ
枕右抄 十三巻

撰集のりりり名所の歌枕採りては和歌のいろはくちく
と層くちく合せたりとせり
歌枕秋の寢覚 二巻 有賀長伯

耳くちくぬ名所の歌枕も採りては和歌のいろはくちく
と層くちく合せたりとせり
増補歌枕秋の寢覚 八巻 同上

前の書かひし増補し名所の歌枕も採りては和歌のいろはくちく
と層くちく合せたりとせり
名所はいつり 一巻 加藤景範

秋のわがめりりり近き名所も採りては和歌のいろはくちく
と層くちく合せたりとせり
世くは志より 十二巻 有賀長伯

四季志雜の題を部類し其題より向きあつた名も何
あけいづく秋成りてや

世の志より追加 一卷 同上

一首一両名所採り合せり故にも代考りたり
歌林草分夜 一卷

此書も四季神祇釋教山類水邊植物生類雜の類なり
合てり名不のり秋あつたく神珍なり作者はまじり
す室水立の上本す

和歌名苑録 写本 三十卷 薩本伊秦

國に秋次第して名不のり秋なり諸書より考へて
のす紀行のり秋ありあつて地は代考りたり
多し○此書の核者肥後熊本のり

和歌名所指南 一卷 二本 四季神祇釋教山類水邊植物生類天象人倫器財居所雜等の

類なりとりの景ゆり合せの名不のり何れも
奉り秋成りてや元禄五年八月刻

名所和歌探本求源抄 二卷

名不のり國に秋成りてや元禄五年八月刻
代考りては附す○此書寛政中標題なり
名勝志と号し梅月堂より跋ありて世に

知事抄 三卷

名不のり故ゆりあつてりいりあつてり
いりいりいりいりいりいりいりいりいりいり

勝地吐懷編 二卷 沙門契沖

類字名所集の歌より國に相違のりいりいり漏脱の名も
りいりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいり
りいりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいり
○元禄五年契沖の真字序りなり寛政四年伴蒿溪より跋あり

勝地吐懷編異本 写本 四卷 同上

所詠出之各所和歌國分目録あり各所似く各所之向く... 第一卷 以行 卷首は國史の文が引次は鳩嶺活道園等の... 第二卷 知行 興行 羅行 卷首は國史の文が引次は華堂玉水... 第三卷 也行 安行 惠行 卷首は安伎倭布留川等... 出畢先有二卷合四卷草稿成記 神通乘沙門契仲○此本と

今案名蹟考 写本 七卷 岩橋秀栄

大和名所和歌集 写本 一卷 長景福

伊勢名所拾遺集 二卷 写本

勢州の名所... 古物... 龍尚舎漢字

安積沼 民部卿 布障子 松島 芝山前宰相 朝餉 遠里小野 尹宮
 須磨浦 日野前新大納言 布引瀧 帥宮 御手水 間布障子 二津泊 民部卿
 御湯殿上 吹上濱 同上 布障子 藤代御坂 日野藤大納言 藤壺上御
 壺祢 滋賀樂山 尹宮 志賀浦 日野前新大納言 真野入 江芝山前宰相 逢
 坂 民部卿 秋戸 清瀧川 中務卿 伏見里 日野前新大納言 廣澤池
 冷泉寺別朝臣 神山 帥宮 昆明池障子 嵯峨野 右衛門督 荒海障子 宇
 治川 日野藤大納言

隨筆類

東齋隨筆

後成恩寺兼良公の隨筆一巻 一條兼良公
 後成恩寺兼良公の隨筆一巻 和漢の雜談知ちりせれたる本朝
 之隨筆ト号す此書如とありす

榻嶋曉筆

此書ハ白皇國の故事雜話ヲ外漢土天竺ニ入リテ書キテ了
 隨筆二十卷 二十卷
 第一 戲實 此卷ハ生元佛法前後 國土起 字源 詩初
 歌起等ノヨリ始メテ了

- 第二 一切施王 修持婆王 五帝 夏高王 神田白王后 延喜帝
- 第三 相論上 草花 春秋 月花 大宋元朝 大元日本等ノ
- 第四 相論下 天台 馬鳴 幽多 善言等ノ

の鳩杖銀茶酒が賜りしと云
小益俗稱灰屋紹益
二卷 佐野紹益

紹益俗稱灰屋紹益... 和歌の... 貴人の龍遇... 其餘... 下卷... 虚菴の風致...

醍醐隨筆
二卷 四本 中山三柳

之柳ハ京師の医者... 醍醐隨筆... 中山三柳... 病氣...

是... 良医の... 醍醐隨筆... 醍醐隨筆... 醍醐隨筆...

東見記
二卷 人見ト絶

昔呂興叔張横渠... 東見記... 東見記... 東見記...

今考訂しなすりて目次ありておと再出と除く
一考訂しなすりて目次ありておと再出と除く
録付す

一此書考訂なりぬるも又再写せハ誤れせんハ必然也
此ハ梓上さす欲しむも
少シクもなれりや後写せん人唯々校合ハハたせん
ゆゑもこのゆゑの 天明二年寅歲秋八月張州吳府書林西村常
榮志

南嶺子

四卷 多田義俊

義俊後ニ桂秋齋ト号す南嶺ハうけ別号なり此書神通の
國學の其餘種々あり何書し隨ふなり○寛延己巳九月
人中山游龍序 陶山尚善序 良サ之伯耕の序あり同の上本
南嶺遺稿 四卷 同上
書體上ノ目ト宝曆丁丑九月良サ之の序あり同の上本

秋齋問語

四卷 同上

同の上本
ちや草 写本 一卷 同上

これ同いぬの隨ふりてのゆゑなりや草草かれど今
俗よりいへばこれよりつゞかぬるの轉りてなりと
和書のゆゑ寛延二年熱田社参詣の女の圖なり何なりや○眞書
右一卷延享卯の五月尾張へ歸る人何なりや○眞書
りていへば今ハ引用せざるなりや○眞書
一考訂しなすりて馬のそれむけりぬ 桂左衛門源武起○四
ぬかり草紙 写本 三卷 同上

上巻 近世神道家のしるしも所奉く出口延起 垂加翁のしるし
要集のしるしも所論せり

中巻 玉木翁 増穂大和白井宗因 吉川惟足等のしるし其外近代
故實者のしるし 鳴弦相傳のしるしも所論せり

下巻 橋家神軍流のしるし 春臺辨道書のしるし 職原のしるし 壺井翁
と不和のしるし 舊事紀のしるし 大成経神道のしるしも所論せり

○按ずるは此書のしるしも所論せり 南嶺遺稿のしるしも所論せり
○按ずるは此書のしるしも所論せり 寛保三年六月多田兵部義寛のしるし

宮川日記 写本 二巻 同上

此書は延享二年二月六日より三月十二日まで伊勢の遠海の間
のしるし也 西宮の故実 神庫秘書のしるし 倭姫世記等不審の
しるし 火の鏝の圖 階衣のしるしの圖 猪鹿のしるしの圖 あり

遊和草 写本 二巻 同上

延享十九年の秋大和郡山よりしるし 延享十九年
名つけし書也 今世佛敎家儒の説の混じりし神道神曲記すも
あり 隠見のしるし 又舊事紀のしるし 十種神宝のしるし 神書
正偽のしるし 又舊事紀のしるし 肉食のしるし 神書
引證す

續遊和草 写本 二巻 同上

享保十九年 樂遊のしるし 或人は書く贈りしるし 〇
垂加翁のしるし 荒魂和魂のしるし あり 〇
新方神明丸等のしるし あり 〇 自跋あり

五巻 丹羽桃丸

和書部六

二十九

鳥會康カウキ著 潜確センカク類書ルイショ群談採餘グンタンサイヨ瑯琊代醉ランヤダイサイ等トウ六

行餘コウヨ隨筆ズイヒツ 二卷 板屋壹助イタヤウヂ
和漢の正史野史の中を考つてしよしよとてしよしよの足識タシ河津カヅと
あしせしはまし安水五の八月の序らるる河鸞カヅ坊画龍ハクと
あしせり若狭のく

寒サムイ 一巻 草賀親賢クサガチケン
草賀興クサガキ軒ケンこれのほそなり冬夜客フユヤカと後ノチすしよしよとてしよしよ

久保之取クボノト抱尾ハクビ 一巻 入江昌喜イライマサキ
此書俗談の出所イソコト古書コトを考つてしよしよとてしよしよ其餘和歌の日本紀
のちの語の考コトをいへり昌喜マサキ悠遠ユウエン窟クツとてしよしよ

國クニ 三卷 四本 森長見モリナガミ
皇國のゆが諸書シヨショ河川カヅとてしよしよとてしよしよとてしよしよとてしよしよ

玉タマ 讚岐森助左衛門長見タマキモリノサエノサダミの自序と谷景信漢字の跋ハクあり
書體シヨタマ全シヨタマ隨筆ズイヒツとてしよしよとてしよしよとてしよしよとてしよしよ
のちの語の考コトをいへり昌喜マサキ悠遠ユウエン窟クツとてしよしよ

玉タマ 勝間カチマ 初編 二卷 本居宣長ホンキノノブナガ
玉タマ 卷之一 初若菜 卷之二 櫻の落葉 卷之三 けらぶれ
玉タマ 卷之四 日十八草 卷之五 枯野の薄 卷之六 けらぶれ
玉タマ 卷之七 ふらぐみ 卷之八 萩の下葉 卷之九 花の雪

桂林漫録ケイリンマンロク 二卷 中良ナカヨシ
○此書十卷已下四編五編シノハラ嗣シノハラとてしよしよとてしよしよとてしよしよとてしよしよ
とてしよしよとてしよしよとてしよしよとてしよしよとてしよしよ

和書部六

二十九

第一	忠孝篇	第二	慈愛篇	第三	酬恩篇
第四	報仇篇	第五	崇行篇	第六	勝蹟篇
第七	勇烈篇	第八	傳奸篇	第九	主厲篇
第十	奇探篇	第十一	執心篇	第十二	寔魂篇
第十三	往生篇	第十四	殃禍篇	第十五	才智篇
第十六	清直篇	第十七	俗談篇	第十八	雜事篇

鹽囊鈔

七卷 十五本 行卷言

僧俗の故事和漢の實五百三十六箇條國字以てありて○埃字書は音愛塵也と云ふ○奥書は予時文安三年五月觀勝寺金剛佛子行卷言

塵添鹽囊鈔

二十卷 十五本

序に云む鹽囊鈔七卷に觀勝寺行卷の撰するをり又塵袋十卷に作者の云ふ言辭の解説集解節用の古事抄撰撰す今予同類の塵と拾ひす

塵のりよりわく二百一箇の至要の塵の箇ひ取く以て鹽囊五百三十六箇の中添加す都て七百二十七箇にたりナれと云ふ二十卷とす

大文元壬辰年二月釋氏某比丘○此書世俗のこゝろの取五節句等の俗向のゆれ起ては老と云ふ

世諺問答

三卷 一條兼良公

本朝節序の故事もは書ありと云ふ後成恩寺殿の作するの孫兼冬公の續筆と云ふ○兼冬公の跋は班彪史記の班固が

かきけき家式部が源氏も信は文貞之位が宇治十帖に云ふ

齊東俗談

七卷

此書ハ俗向の通用の言詞の門にありては釋せり○弘文院林氏の門人松浦其の著す

本朝俚諺

十卷 井澤長秀

俗向の言詞なりは俗向のいひ傳ふるものありあつは諸

書の川くこれに其の千五百七十箇條よりなり厄子或
九字のり此はとる

諺草

七卷 貝原好古

日本歳時記

五卷 同上

好古自序云はるはるの文字の所より其下より諺の出所は
一は俗語の所より一はやまの河原の所より一は
鄙の俗語の所より一は前代に傳へたる五國の詞に又佛の
もまの所より一は前代に傳へたるを拾ひて一は
わが國の所より一は前代に傳へたるを拾ひて一は
よる。門人藤齋上野惠迪の跋に元禄庚申七月とあり
此書は正月より十二月まで毎月が故實雜事は漢土の書より
この中邦の文字をとりて一は邦の所より一は漢土の所より
る此月より條下のせりて一は食物酒漿の製造の養生
生のはともあり春末の附録は都鄙祭事記なり○此書好古

の編録は篤信の刪補ヤ一のし貞享子丁卯年九月篤信
の序より同は二月刊行す

和事始

六卷 同上

天地 人倫 歳時 居所 衣服 官位 器用 寶貨
飲食 人事 文教 武備 神事 禮樂 典制 伎術
動植 佛家 和漢の書考

大和事始の附録ハ國朝年號譜なり大化より元禄まで八年號の
字との出所の考證なり○元禄十年四月松下見林序同
丙子冬篤信序 同年好古の自跋あり

廣益俗說辨

五十一卷 井澤長秀

前編 二十一卷 後編 五卷 遺編 五卷
附編 七卷 殘編 八卷 贅辨 二卷 贅辨續編 三卷

新羅國東南日本と鄰る云々

錢起僧の日本へ帰るを送る詩有り

同書卷四百八十一 新羅國東南日本と鄰る云々

文苑英華卷二百十九 錢起僧の日本へ帰るを送る詩有り

同書二百二十三卷より二百三十二卷まで日本人の贈る詩并

日本國王の勅する書并詩數十首と載

白王朝類苑卷四十三卷五十九 日本僧のゆを載

同書卷六十 日本扇のゆ 卷六十三 日本國稱貢のゆ

同書卷七十八 天台智者教五百餘卷が日本へ来りゆ

歐陽文忠公全集卷十五 日本刀歌有り

玉海卷一百八 大中七年四月日本王子が遣りて来朝せり

器音樂の献する有り

同書卷一百五十四 齋然のゆ 元豐元年日本僧仲廻方物か貢

書言故事大全卷之四 日本王子善棋の圖有り

米元章書史 陳賢草書奇逸して辨る日本書の如し

中華古今注卷中 墮馬髻倭の墮髻有り

菊譜 新羅一名玉梅一名倭菊

鶴林玉露卷十六 日本國の僧安覺のゆ

大宋僧史略卷下 倭國則僧は傳法し師の号が勝有り

歷朝釋氏資鑑卷五 其國書より出處の天子有り

教行録卷四 日本國師の二十七問は答并序云々

同書卷六 四明尊者僧が日本國へ遣りて仁王經疏が来り

釋門心統卷一 教行録より仁王經疏のゆ有り

同書卷二 日本國師源信二十七問のゆ 卷三 密教云々空海のゆ

同書卷七 宗印字元實之嗣法俊苾芻の密教が日本へ傳る

西峯の按は俊苾芻八泉湧寺の僧元亨釋書有り

宋高僧傳卷十四 唐揚州大雲寺鑒真傳 西峯の按は元亨釋書

小鑑真の傳有り 卷二十九 沙門最澄のゆ 卷三十 日本國僧圓

釋書一覽 和書部六

九十一

和書部一覽

同書卷二十二 萬曆三十七年十一月倭并琉球其王ハ虜ス云々
同書卷二十五 天啓四年七月紅夷屢圍中江樓近ヤ日本倭人
と勾引ス云々

卷中之二
兩朝平攘錄卷四 倭力の清盛頼朝信長阿奇支等の事
卷中之三

高皇帝御製文集卷二 日本國王論 卷十六 設禮部日本國
王は問しり支しり載 西峯云々日本國王よりハ良懷親王の
御使大將軍よりハ源義満なり 卷十九 倭扇行の詩に
宋景濂蘿山集卷四 賦日東曲十首あり
大明一統志卷八十九 日本國沿革風俗山川土産の事
大明會典卷一百二十二 安南日本等の國の使臣驛傳の事
同書卷一百六十 備倭船の事 卷一百七十二の兩卷も日本の
紀効新書卷八 卷十八の倭寇の事とす

續說部局十 日本寄語 定州薛俊著

唐詩訓解 秘書晁昫著 日本に還ると贈る詩あり

月令廣義卷之一 日本數譯 年紀と一故都とのひ一を去多子と

同書卷二 冷暖茶子の事 卷六 日本國入藤木吉の事

同書卷二十三 日本國阿蘇山石火起て天と接する事あり

劉氏鴻書卷之一 海防倭寇の事 卷八 日本の學徐福と始る事

日本諸菜有く甘草等 卷六十九 倭國求通表文

萬姓統譜卷一百四十 諸方復姓 朝臣日本國使人 卷二十五 辨藩

賜再日本に使す云々

氏族博攷卷之七 氏目 諸方復姓 朝臣

瑯琊代醉編卷之九 尚書全文日本國尚く九州の事あり

三才圖會地理九卷 補陀落山云々 往時高麗日本新羅諸國皆此

由て路所取く以て風信と候へ云々 地理十三卷 日本國圖說

人物十三卷 日本國 珍寶二卷 錢圖 外國品 和銅錢 神功錢

和書部一覽

和書部六

五十五

之、倭國錢文日延喜通宝

五燈會元續略卷二上 道成禪師傳 使於日本國、奉^テす

同書卷二下 夢窓國師の事

釋鑑秘音古略續集二 日本禪師諱ハ印原字ハ古先相州藤氏云々

同書三 太初禪師日本國の人云々

夢觀集卷一 勤無逸^ク日本^ニ使^ス、於^テ送^ル詩 白河関高玉繩下

天上靈梅秘北野の句云々

適情録 日本の僧壺中來朝の事

玉煙堂唐法書 日本 日本皇子書二枚 西峯之此^ニ皇子^トリ

之のハ兼明親王^カなり云々

醫學子綱目卷十九 日本ニ藏^ル疔瘡方

文房器具箋 潘鐵^ハ切^ル、^ハ漸^ク入^リ、^ハ學^セ、^ハ倭^ニ入^リ性^最

巧^ク清^ク倭^ノ伎^ヲ習^フ、^ハ彼^ノ、^ハ十^年云々

本草綱目卷八 倭國水精多し 十一卷 倭硫黃亦佳^カなり

同書卷三十七 琥珀 高麗倭國^ニ出^ル、^ハ色^深紅^ク、

五雜組卷之四五七十一二十五已上六卷との、日本^ノの^ハ載^ス

潜確居類書目卷十三 日本^ノの^ハ譯^語と載 卷九十三 日本^ノ麒麟^錦

於貢^ス云々

卷中之四

圖書卷之三より卷之百四十六卷に至るまでの間往^リ日本^ノの^ハ記

す多くハ防^倭の^ハ事^ナリ

卷中之五

圖書編卷五十 日本國圖 海寇圖說 日本國考^ハ、^ハ卷^{五十七}日

本島夷入寇の圖^ハの^ハ事^ナリ

卷中之六

武備志卷八十六 影流^カの^ハ目^録との^ハ辛^酉の^ハ陣^上、^ハ威^南塘^ヲ習^フ法

を^ハ、^ハ卷^{八十七}鏡^飽の^ハ事^ナリ 卷二百二十三 日本

の^ハ圖^ハ、^ハ卷^{二百三十}日本^考、^ハ卷^{二百三十一}備^前刀^の事^ナリ

詳書一覽

和書部六

五十四

上は龍巖鑿りひハ八幡大菩薩春日大明神天照皇大神宮と鑿り
し以のす 卷二百四十六 卷二百二十九等々海外諸國朝鮮考と
卷中之七

續文章正宗卷五 論倭の文り

續資治通鑑綱目卷二十三 元の世祖日本を撃つ 卷二十四 大徳三年

二月僧一山を遣て日本に使者せしむ

大學衍義補卷一百五十五 馭夷狄 日本東海の中を在る

同書卷一百五十六 至元十八年日本に撃つ兵十餘萬海島に死す還る

者僅よ二十人 西峯を還るもの僅よ二十人の十字衍元史に曰十萬の

衆還るもの僅よ二十人の十字衍元史に曰十萬の

莫青日吳萬五かり

聽雨紀談 日本國は真本の尚書あり

五倫書卷二十一 元の世祖日本に伐んし欲する 卷四十二國

朝の遊秩使に奉りて日本に往る

不求人全編卷十三 日本國人物の圖あり

白王明世法録卷七十六七十九八十 日本の海防のゆとのす

普陀山志卷二 日本備惠鐔のゆ 卷四 昌國に東控三韓日本

遵生八牋卷八 袖爐を倭人製するゆり此の漏空二四早蓋

同書卷十六 文匣具 倭式鉛と以て口以鉛するもの甚佳なり

事林廣記續集卷三 倭韓粟のゆ

唐詩歸卷九 王維送秘書晁監詩 卷二十四 沈頌金文学が日

東に還ると送る詩あり

明詩選卷上 董良史が詩 過橋を登る天台寺 泊舟風帆日本船

唐類函卷一百十六 倭後漢より通するゆり

博物典彙卷二十 四夷 日本

音韻字海卷之首 夷字音釋いろは

大明一統賦卷之上 日本國即古之倭奴なり

儂語編類卷之七 日本の僧の帰る松送る章莊が詩あり

弁州稿選卷之五 日本國松皮紙と出す

卷中之八 蒼霞草 日本考

國朝獻徵録卷十より卷二百二十までの間四十三卷倭寇の
ゆゑにゆづりかへりし墓誌行状傳など所記せり 卷二百二十卷よ
日本志

登壇必究第六より第三十九までの間六卷倭寇のゆゑに所記す
同書第二十三卷 日本國圖よ日本愛宕山靈感地藏王の文あり
卷下之一二 以下朝鮮撰述の書あり

東國通鑑 新羅始祖八年 漢甘露四年 倭來て處に寇す
同書卷之二三 倭寇のゆゑ 卷之四 晉建元二年 春二月倭使新羅
に遣はし婚を請ふ報せず 卷之七八九 新羅紀文武王十年唐
咸亨元年 八月倭國瑞か日本と更自言日おととらよ血一以
て名をす 卷十より卷五十六までの間二十七卷往く日中と往

復のゆゑ倭寇のゆゑに所記せり
卷下之三

三國史記卷一より卷四十五までの間十六卷倭寇のゆゑに所記す

二韓詩魚鑑卷之下 密直郭頴か感渡海 七言古詩とのす詩中
至元は蒙古日本を侵せしとき高麗はもとて堂岐を争ひてしり
海に渡りしゆゑに所記せり 一岐日本島名とす

莫齋詩集卷之一二三 日本の僧と贈答の詩多し
慕齋文集卷之三 各對馬主書 復日本國大内殿書等あり
同書卷之四 復日本國王書あり 西季よりこれに足利義晴の書あり

東文選卷之十十一十六十七 鄭夢周が使節日本を奉ずる作 山雀恒か
日本借題す詩其餘数人の作ものす 卷之六十二六十三七十八
七十九九十九十二一二百一二三の卷、日本のゆゑにゆづりし文のす

亞日山世稿卷之二 日本のゆゑにゆづりし文あり

東人詩話卷下 日本釋梵吟詩二句がけり
三編行實圖 倭寇の時の忠臣烈婦の記す

續三編行實圖 同上

太平通載卷之七十五 近歳一名相あり使が日本に奉りて西方寺
小至し

卷下之四

經國大典卷之三 倭学 伊路波消息書格老乞大童子教雜語本

草議論通信鳩養物語庭訓往來應永記雜華富士

大典續録卷之三 畠山京極 武衛山名細川大内寺殿使人

到浦 卷之四五も略日本のゆとのせり

重刊神應經序 適日本釋良心らり神應經を以て來りて獻り

兼く其本國 神和介氏丹波氏の癩瘡と治す八穴の法を傳り

海東諸國記 凡例と道路日本の里數に用ゆ其一里我國の十里

准ずるは書日本の風俗を記す

圖は了 日本國西海道九州圖 一岐圖 對馬島圖あり 此日本
國紀の奉りて天皇代序 天神七代地神五代人皇始祖神武天皇
以後のゆとを記せり

徵比必録卷之二 平秀吉のゆと記す 已上二百二十六部其餘本朝の古
書數十部とありこれハ澄す 元禄戊辰西峯散人見林自序を

○按ずる木下元高の好書館漫筆に曰童子向く中華の書の日本を稱
すハ記す凡百二十餘部なりこれ異稱日本傳の外なり 補遺を

らんと欲す亦別は百五十餘部と記すこれ西峯氏ハ外
のゆとを成書せす他日を俟

取 我慨言 四卷 本居宣長

皇國のゆとのゆとありて近き文祿慶長の比豊臣氏の武威
ありやまはるは皇國の漢土朝鮮のゆとありて
ありて皇國のゆとありて漢土の書よみながら
ありて皇國のゆとありて漢土の書よみながら

中古より漢字の世にひろく用ゐられたるものなるをいふは、
風俗のいさゝか漢土を戒むるに似たり。聖我慨言のやまをいふは、
傳善隣國室記の係せたるをいふは、此書異稱日本
の國體を損せざるをいふは、安永七年二月本居宣長の
著述より寛政二年四月有永を名序同十二月尾張鈴木服漢字の
序の寛政の四月上木す

本朝改元考

一卷

山崎嘉

文武天皇の大寶元年より當代まで年号改元の月日考へ
あつせし

本朝事跡考

一卷

林春齋林春徳兩人の著すところにして朝鮮の申竹堂が所望小
らく本朝人物地理土産行事等をあつせし

日本遷都考

一卷

平本定智

往古より遷都の次第を考へて屋島吉野寺に除きてた
作者の發明なりといつて定智は林家の仙人し

七夕考

一卷

跡部光海公羽

本朝の七夕の星を考へて和漢の故事古歌を考
へて未だ如流神道の大意思あり

國號考

一卷

本居宣長

皇國の号をいふは、
くわん海せうりつて國号といふは、大八島國 葦原中國 水德國
豐葦原水德國 夜麻呂登 秋津島 師木島 虚空見倭國 浦
安國 細支千足國 磯輪上秀真國 秋津洲 大日本豊秋津洲
倭 和 和奴國 磯取 蘆島 大倭國 大養徳國 日本
比能母登 野馬基 豊秋津島 等なり。○此書大明七年の秋上
木す

好古小録

二卷

藤貞幹

上卷 大宝元年勅書_二用少_一とらけ大学寮の印 驛鈴

伊予國道後湯碑 元明天皇御陵の碑 隼人の図 其餘書画ハ

大宝元年の勅書 鴨毛屏風 空海書 橘逸勢書 官贈太政大

臣書 道風佐理行成書 陰陽寮日月図 大内東園 繪巻物

屏風等

下卷 雜考 招提寺講堂 校倉 古瓦 其餘古文書諸器物

等 附録 民部省厨量烙印 銅斗 古磁研 書囊 竹帙

牙籤 書車 燧衣 麻袋等の圖と_一り_二す

○此書目上巻書画の部は職人畫歌合西行物語圓光大師親鸞聖人等の繪傳の_一 下巻は禁秘御抄和名鈔職原抄代草子等の古中の_一 又編年詩鈔引く黃楊木印材と_一す_二と_一 又_一の寛政六年六月五位下橋経亮の序と_一す

好古日録

一卷

秦 漢委奴國王印 關羽印 古錢 石敢當 古瓦文字

名人圖 淳化閣帖 古竹筒 古本 山口本 旧本家傳

活字年中行事 古曆本 片假字曆日 花押 古尺 上世食

器 上世衣服 古琴 古劍 歷世古物 歷世文書 蝶鳥圖

其餘雜事とのせり_一○寛政丙辰正月藤原資同漢字の序_一

同九年四月上木す

和漢硯譜

三卷

石希聰

卷之一 日本研材 清瀧石 鳴瀧石 月輪石 鴨川石等

瑪瑙石 琥珀石 鏡石等と_一す_二と_一十八種と_一す

産所石色絲紋_一と_一す

日本硯石

柿本人丸硯 壬生忠岑硯 以下四十六種

卷之二

漢研

進御琴研 顏氏研 以下四十二種

卷之三

漢研石

六十八種

高氏研譜 二十種

茅氏研譜 二十三種

附錄 清張山來研林

○此書和漢の古硯の圖すゝのむくゝの巻首より未上月紫邦彦の序 源元凱の序 寛政七年春 石希聰の自序より 寛政九年四月上木す

集古十種

銅器 印章 硯 樂器 甲冑 馬具 刀劍 弓矢

旌旗 鐘銘 碑銘 扁額 小倉色紙

已上既に九行の如く其目錄の大概は左の如し

銅器部 一卷 凡例

一凡鏡鐸 西盤係銅器者皆載此集

一凡此集隨得收入是以世次年代皆不能以序
一凡物雖涉偽實有可疑而無的證之可指摘者今且收入以資博覽

畧目錄

相模國鎌倉鶴岡八幡宮藏政子十二手箱中鏡圖

京師大佛殿什物大阿秀吉公鏡并匣圖

山城國大原古知谷阿弥陀寺什物鏡圖

陸奥國安積郡王宮權現神宝米女所持鏡圖

相模國禪居菴什物大鑑禪師所持鏡圖

尾張國神戶村取塚出土鏡圖

大和國奈良道祖神輿鏡圖

伊豫國三島社什物孝謙帝御鏡圖 同天智帝御鏡圖

攝津國長田大神鏡圖 三圖

伊勢神宮檜垣丹波守所持鏡圖

越後國魚沼郡松代市所掘出鏡圖

大和國法隆寺藏鏡圖

參河國鳳來寺鑑堂藏鑑圖 十三面

相模國藤澤寺什物照手姬所持鏡圖

豐前國小倉足高山所掘出鏡圖 九面

其餘數十面總計二十餘圖

印章部 四卷 畧目錄

卷之一 天皇御璽 共四

建武之寶 執政官印

典藥寮印 宮內印

雅樂寮印 造平安宮城職印

大學寮印 勸學院印

民部印

皇帝官印

神祇官印

左京印

圖書寮印

施藥院印

遣唐使印 共二

義和年間民部省所用印 卷之二

官印

攝津國印 其餘諸國印

鎮守府印

大和守印

內親王酒人印

足利家印 共二

豐臣秀次公印

清原經賢印 共三

卷之三

伊勢大神宮印

仁和寺僧綱印

東寺傳法印

山北月國印

宇治郡印 共二

大寺卿印

右大臣藤忠平公印

平右府信長公印 共三

永祿年間印 共二

武田信玄印

大和國印

太宰府印

添上郡印 其餘諸郡印

下野國足利學校印

將軍義仲印

豐太尚印

義平年間加宅券所用印

金澤文庫印

雄德山八幡宮印

弘福寺印 共二

東大寺印 共三

和書部一覽

六十三

大安寺印

百濟寺印

法隆寺印 共二

西大寺印

比叡寺印

延曆寺印

因幡國師印

石山寺印

因寺孝謙帝勅作印

小田原最乘寺道了權現印

高山寺印

日蓮上人印

安樂壽院印

卷之四

諏訪社印鈕

東寺印鈕

法隆寺印鈕

佛乘禪師宋朝諸來印鈕 共二

伊勢內宮改印櫃

法隆寺印櫃

烙印 共三

其餘數十顆四卷總計百八十餘圖

古硯部

一卷

畧目錄

大和國吉野山吉水院藏後醍醐天皇御物竹文其至圖

同竹硯箱圖

同琨玉硯圖

同國釜口普賢院曾我堂藏千宗易硯圖

同銅雀其至瓦硯圖 同國當麻寺藏松蔭硯并箱圖

相模國鎌倉鶴岡八幡宮藏源賴朝公硯箱圖

山城國土生寺藏土生忠岑硯圖 大和國東大寺藏磁硯圖

京師東寺藏硯圖

同弘法大師屋宇硯圖 同藏唐李季家製墨圖

攝津國大坂甘栗葎堂藏硯圖 大和國在原寺藏在原業平硯箱圖

其餘數十圖總計三十餘圖

樂器部

三卷

畧目錄

卷之一

大和國信貴山藏二鼓圖 同藏振鼓圖

同藏鞀鼓圖 同藏面鼓

安藝國嚴島藏小櫻竹生圖 同代衣圖

大和國法隆寺藏洞簫圖

同國吉野山藏後醍醐天皇御物三嶽九笙圖 同十文字笛并高麗笛圖

家藏堪能丸圖

大和國法隆寺藏琴圖

同國龍田社藏服鼓圖

同鞀鼓其至圖

同國東大寺藏古面圖

山城國本能寺藏時雨箏圖

和書部一覽

和書部六

六十四

和書一覽

卷之二

安藝國嚴島明神藏箏圖 同藏舞樂古面圖
相模國鎌倉鶴岡八幡宮藏舞樂面圖 陸奥國願成就寺藏琵琶圖
大和國法隆寺藏石胴鞆鼓圖 山城國梅宮社人橋本肥後藏笏拍子圖
伊勢太神宮神宝笠柱袋圖 南都興福寺藏古面圖
山城國京冰室社藏羅陵王面圖

卷之三

大和國東大寺藏俊乘房金鼓圖 山城國妙覺寺藏二絃圖
陸奥國會津塔寺八幡宮藏漢竹笛圖 同州古屋何其藏四絃圖
大和國東大寺藏伎樂面圖 數三十七 佛工田中內藏丞藏鬼面圖
其餘數十圖總計百三十餘圖

甲冑部

卷之一

備前國邑久郡上寺八幡宮藏佐々木三郎盛久甲冑圖

和書一覽

伊豫國三島社藏源義經朝臣鎧圖 同藏甲冑圖
同藏河野通信鎧袖圖 同藏鍬形圖 源義政公甲冑圖
武藏國御嶽山藏日本武尊甲冑圖

卷之二

山城國藤森社藏類當圖 同籠手圖 同膝當圖 同胫楯圖
同鎧唐櫃圖 大和國興福寺藏源義經朝臣甲冑圖
加賀國江沼郡須輪間村大藏安貝盛甲冑圖
伊豫國三島社藏源賴朝公所奉甲冑圖 新羅三郎義光兜圖
安藝國嚴島社藏源義家朝臣甲冑圖 同藏平重盛卿甲冑圖
同藏大内義隆甲冑圖 尾張國海東郡馬島村白山社藏景清甲冑圖

卷之三

大和國吉野山勝手社源義經朝臣甲冑圖
下野國都賀郡小山驛祇園山天王寺藏小山下野守兜圖
武藏國荏原郡品川領高輪法藏寺楠心成冑圖

和書一覽

和書部六

和書一覽

和書部一覽

六十五

攝津國桂尾山勝福寺藏武藏守平知章甲冑圖

同國勝尾寺藏宇津宮賴綱十念燒圖

和泉國北曾根村農家藏北島連甲冑圖

攝津國八部郡農家藏尾次郎兵衛家藏源義經朝臣所賜藤

威甲冑圖

新田左近衛權少將兼武藏守源義宗朝臣大袖圖

陸奥國石川八幡宮藏源賴光朝臣鎧圖

武藏國江府三田小山龍原寺藏加藤清心冑圖

河內國觀心寺藏楠心成喉輪并腹卷圖

大和國信貴山本覺院藏楠心成兜并片袖圖

出雲國大社藏甲冑圖

馬具部

卷之一

二卷

畧目錄

其餘數十圖總計五十餘圖

古銜圖

大森考七鞍圖

武藏國御嶽山藏鏡鞍

河內國錦部郡觀心寺中院藏楠心成鞍圖

源義政公香包鞍鏡圖

相模國鎌倉極樂寺藏大館次郎鞍圖

新井家藏本古鞍圖

甲斐國山梨郡野塚得壹鎧圖

大和國奈良心倉院藏黎莪銜圖

備前國上寺村八幡宮藏佐木盛綱銜圖

卷之二

大和國法隆寺藏壹鎧圖

同國東大寺若宮八幡宮藏移鞍皆具圖

美濃國大井驛長國寺藏根津是行鎧圖

同鞍銜圖

九井某家藏豐臣秀吉公銜圖

陸奥國白川郡大村所塚得轡圖

備前國上寺八幡宮藏佐木盛綱馬腹帶環圖

伊勢內宮文殿藏古銜圖

伊勢神庫馬具圖

同白馬圖

其餘數十圖總計五十餘圖

刀劍部 二卷 畧目錄

大和國吉野郡賀名生鄉和田村塚源二郎家藏後醍醐天皇御劍圖

和書部一覽

和書部六

六十六

和書部六

六十六

飛彈國高山國分寺藏小烏丸大刀圖 平鞠大刀圖

山城國鞍馬寺藏源義經朝臣太刀圖

伊勢內宮藏依藤太秀鄉切太刀圖

播磨國宗栗郡山崎所平瀨某家藏天國太刀圖

相模國鎌倉鶴岡八幡宮藏源賴朝卿太刀具尻鞠及弦卷圖

千葉介常胤下鞠圖 筑紫彦山所堀得刀圖 丹波國大江山所得刀圖

源賴義朝臣太刀圖 伊豫國三島社藏平重盛卿太刀圖

那須家藏與市宗高大刀圖 伊豫國三島社藏大木林彦七所奉太刀圖

同大塔宮所奉太刀圖 尾張國熱田社藏兵兵庫鎖太刀圖

源義家朝臣海老鞠卷腰刀圖 相模國箱根權現社藏赤木短刀圖

同藏源賴朝卿所奉太刀圖 同藏嵯峨天皇御劍圖

同藏古太刀圖 伊豫國三島社藏高力左近大夫高長所奉太刀圖

同藏平重衡卿所奉太刀圖 信濃國諏訪社藏細切丸太刀圖

長門國赤間關阿弥陀寺藏安德天皇御劍圖

同藏能登守教經刀圖 攝津國丹生山田農粟花落理左衛門藏天國太刀圖

駿河國富士淺間社藏武田信玄太刀圖 足利家短刀金具圖

京師本能寺藏刀劍圖 近江國竹生島社藏依藤太秀鄉所奉太刀圖

武藏國多摩郡御嶽山社藏室壽丸太刀圖 京師六角堂古劍圖

織田信長公腰刀圖 讚岐國楠某家藏楠心成腰刀圖

大和國吉野山櫻本坊藏大和納言殿寄附護摩刀圖

同藏村上彦四郎鐔圖 山城國本能寺藏大太刀圖

其餘數十圖總計九十餘圖

弓矢部 一卷 畧目錄

攝津國住吉社藏弓并弓囊圖 出雲國大社藏弓圖

尾張國熱田社藏弓圖 相模國鎌倉鶴岡八幡宮藏源賴朝卿弓圖

同藏武田信豐繁藤弓圖 出雲國大社藏矢圖

加賀國江沼郡須輪間村多大社藏實盛表指鐵圖

尾張國熱田八劍宮藏矢圖 同藏夏目圖

和書部六

和書一覽

六十七

近江國佐々木家藏六角義賢鍬圖 攝津國住吉社藏籠圖

同藏鞞圖 伊豫國三島社藏淺利與市所奉籠圖

同弦卷圖 尾張國熟田八劍官籠圖 同矢加羅美圖

伊豫國三島社藏和田小太郎所奉籠圖

攝津國八部郡農鷲尾次郎兵衛家藏源義經朝臣鞞圖

同鍬圖 越後國一宮弥彦神社藏鎮西八郎為朝鍬圖

大和國釜口長岳寺藏能登守教經矢圖

攝津國住吉社藏鞞圖 同鞞袋圖

南都東大寺藏竹籠圖 京師荻野某家藏秦川勝胡籠圖

其餘十餘圖共計三十餘圖

旌旗部 三卷 畧目錄

卷之一

攝津國天王寺藏貞固親王旗圖 同藏貞保親王旗圖

同藏平重盛卿旗圖 同藏平行盛旗圖 同藏清經旗圖

同藏能登守教經旗圖 同藏貞平親王旗圖 同藏貞元親王旗圖

卷之二

大和國吉野山吉水院藏後醍醐天皇御旗圖

攝津國天王寺藏赤松則祐旗圖 同藏足助次郎重範旗圖

同藏佐々木四郎高細旗圖 同藏備後三郎高德旗圖

卷之三

大和國吉野郡賀名生鄉和田村堀源次郎家藏後醍醐天皇所賜

御旗圖 湯川某家藏大塔宮錦旗圖

武藏國品川法藏寺藏楠山成旗圖 京師五條八幡宮藏旗圖

甲斐國山梨郡荻原村雲峰寺藏武田信玄旗圖 二樣

源義家朝臣旗圖 伊豫國三島社藏旗圖

其餘數圖共計三十餘圖

鐘銘部 六卷 畧目錄

和書一覽 和書部六

六十八

卷之一

山城國神護寺鐘銘
山城國道澄寺鐘銘

大和國奈良南圓堂銅燈基銘

卷之二

相模國新長谷寺鐘銘
相模國菅根山鐘銘
相模國鎌倉圓覺寺鐘銘

安房國千光山清澄寺鐘銘

卷之三

大和國奈良真言院鐘銘
武藏國豐島郡淺草寺鐘銘
山城國八幡神宮寺鐘銘
山城國京妙心寺鐘銘
大和國奈良般若寺鐘銘

相模國鎌倉巨福山建長寺鐘銘
同國同郡真福寺鐘銘
相模國鎌倉鶴岡八幡宮鐘銘
同國山崎宝積寺鐘銘
陸奥國白川鹿島最勝寺鐘銘

卷之四

武藏國金澤鄉知足山龍華寺鐘銘
同瀨戶之島鐘銘
陸奥國平泉中尊寺鐘銘
大和國吉野勝手明神古鐘銘

卷之五

山城國大奈廣隆寺鐘銘
陸奥國平泉毛越寺鐵燈銘
紀伊國密寺鐵燈扉銘
武藏國多麻郡府中六所明神境内鐵佛銘
大和國藥師寺佛背銘
同藥師銅佛光背銘
常陸國青柳凌宵寺經筒銘
同國君澤郡增山村益山寺花盤銘
山城國京壬生寺經口銘

大和國奈良中川寺鐘銘

同國豐大光明神鐵燈銘

尾張國一宮燈基銘

同國法隆寺釋迦銅佛光背銘

相模國鎌倉形得經筒銘

伊豆國田方郡牧野村所掘得骨壺銘

陸奥國會津庄八幡宮經口銘

大和國東大寺聖武帝銅板勅書

卷之六

伊豆國走湯山東明寺鐘銘 肥前國平戶觀音院鐘銘
相模國鎌倉鶴岡八幡宮銅燈銘 大和國東大寺燈其銘
備中國一品吉備津宮鐘銘 駿河國巨齋山清見寺鐘銘
大和國栗原寺塔堂露盤銘 同國法隆寺銅斛銘二種
長持寺闕伽榻銘 安藝國伊都岐島鐘銘
其餘數十篇總計七十餘篇

卷之一

七卷 畧目錄

大和國藥師寺佛足石碑 陸奥國多賀城碑
大和國益田池碑雷宇

卷之二

陸奥國宮城郡松浦碑 同國盤手郡松浦碑
近江國草津驛西南新田村碑 武藏國野火留平林寺碑

大和國吉野山中苔清水碑 同國奈良佐保山御陵碑
大和國奈良招提寺金堂鋪闕并銘
陸奥國宮城郡信田小太郎館岩切山碑
攝津國湊川楠心成碑 山城國宇治橋斷碑
武藏國品川海晏寺北条時賴墓誌
攝津國芦屋村猿丸大夫墓誌

卷之三

上野國多胡郡真井村碑 河内國石河郡高屋連枚人墓誌
大和國奈良十輪院境内忍海連真食碑
河内國上太子藏聖德太子瑪腦石記

同國古市郡駒谷村金剛輪寺境内永千公墓誌
陸奥國宮城郡燕澤村碑 河内國石河郡春日村紀廣純女古墓誌
卷之四

陸奥國松島御島碑 大和國達磨寺八面碑

伊豆國柳下郡土肥堀内村萬年山城頭寺實平墓誌

卷之五

陸奥國宮城郡南宮村慈雲寺碑 武藏國牛島牛御前社碑

伊豆國和田村伊藤入道墓誌 陸奥國守山大元帥社碑

大和國葛下郡馬場村穴虫山所堀出小野伊太示御墓誌

武藏國品川海晏寺二階堂墓誌 近江國愛智郡百濟寺下乘碑

武藏國八間郡久米村將軍塚碑 伊豆國田方郡善名村碑

下総國葛西郡青砥村古城跡碑 紀伊國高野山町石縮圖

卷之六

相模國江島碑 同國鎌倉扇谷海藏寺碑

大和國宇知郡大澤村楊貴氏墓誌 下野國宇都宮清嚴寺鐵碑

大和國寧樂佐保山碑 肥後國石敢當碑

山城國京五條八幡宮手水鉢銘 武藏國秩父碑

上野國八幡山碑 同國桐生碑 大和國宇治川磨崖碑

卷之七

僧空海益田池碑 草本真跡

其餘數十篇總計六十餘篇

扁額部 八卷

扁額廣攬 一卷 共九卷

凡例 四則

一題署之體法起秦漢 本朝為賢親承之隋唐世有誌者是

以宮殿扁額煇成一玉典刑但中葉以降乾綱解紐宮闈荒廢諸

公名蹟隨亦散亡其僅存者獨書家者流摸本耳今一據之編

入其在佛閣神祠者以僻遠免兵火真蹟往往見存亦就摸

取原本編入

一原字狹少紙冊可容者皆全依原本其字體長大者做陳繹

曾八面九宮圖法縮寫收入若欲復舊觀照線方放大則可

以不謬毫末矣

縮寫割線圖

目各目錄

卷之一

觀智院僧心賢賀真跡百壽
 後土御門院宸翰京師吉田社額元本八神殿
 世尊寺大納言行成卿真蹟借水寺
 同上京師吉田社額日本最上日高日宮
 後柏原院宸翰嵯峨二尊院額小倉山
 花園院宸翰京師心法山妙心寺額玉鳳
 淳和天皇宸翰甲斐國山梨郡東光寺村日輪法城寺額日輪法城禪寺
 清水谷大納言實秋卿真蹟京師吉田社樓門額日本最上西太神宮
 後花園院宸翰相模國鎌倉光明寺山門額天照山
 持明院權中納言基輔卿真蹟江戶聖堂仰高門額仰高
 同上入德門額入德門
 同上聖堂額杏壇
 後小松院宸翰京師金剛寺額究竟頂
 嵯峨天皇宸翰上品蓮華寺
 同上上京辨天額雨室
 後奈良院宸翰知恩教院
 青蓮院宮尊祐法親王真蹟感神院新宮

卷之二

後陽成院宸翰紀伊國高野山興山寺額興山寺
 弘法大師真蹟大和國法隆寺塔頭西園院藏一切經藏
 伏見院宸翰京師花園妙心寺經藏額毘盧藏
 靈元院宸翰江戶東叡山中堂額瑞瑠殿
 同上會昌門
 同上淨花院
 同上法華三昧堂
 同上法金剛院
 同上京師西山天安寺額法金剛院
 同上大隅國八幡宮額敵國降伏
 同上攝津國天王寺額秋迎如來
 青蓮院尊純法親王真蹟相模國鎌倉鶴岡若宮權現額若宮大權現
 龍池院二品尊朝法親王真蹟讚岐國大水主社額正位大水主大明神
 弘法大師真蹟大和國金峯山第四鳥居額妙覺門
 弘法大師真蹟應天門
 世尊寺大納言行成卿真蹟清水寺
 教如堂同上淨妙寺
 同上靈鷲山
 參議佐理卿真蹟鷲音院
 小野道風朝臣真蹟靈山華嚴院
 世尊寺定成朝臣真蹟圓照

卷之三

小野道風朝臣真蹟參河國瀧山寺仁王門額 瀧山寺

同上播磨國極樂山淨土寺額 淨土堂 同上嵯峨青龍寺釋迦堂樓門額 愛宕山

同上山城國乙訓郡西園向日社額 一位向日大明神

同上同國山崎八王子社額 天神八王子 同上筑前國太宰府觀世音寺額 觀世音寺

同上尾張國熱田社東門額 春殿門 同上大和國奈良長樂寺額 長樂寺

同上越後國柏崎永德寺額 永德寺 同上讚岐國白峰領證寺額 領證寺

同上人和國金峯山茅三鳥居額 寺覺門

世尊寺大納言行成卿真蹟 一位高野大明神 東書寬弘六年三月二十八日書之

同上山城國谷清水八幡宮額 雜宮八幡 世尊寺後三位行能卿真蹟石山寺額 石山寺

世尊寺二位經朝卿真蹟武藏國多磨郡谷保村天神額 天滿宮

世尊寺三位行季卿真蹟山城國梅津地藏堂額 引接寺

弘法大師真蹟京師東寺什物 八幡宮

世尊寺二位經尹卿真蹟武藏國瀬戸大山積社額 一位大山積神宮

後鳥羽院宸翰筑前國博多聖福寺額 杖乘最初禪窟

傳教大師真蹟 南無山王廿一社 後小松院宸翰相模國圓覺寺額 圓覺寺

後土御門院宸翰京師大德寺方丈雲門菴額 靈光

弘法大師真蹟大和國金峯山茅一鳥居額 卷心門

卷之四

神祇伯後二位下兼雄卿真蹟播磨國中市郡天神鳥居額 天滿宮

藤木甲斐守敦直真蹟京極宮御領內下柱村御靈宮額 御靈宮

中御門前大納言宣胤卿真蹟近江國愛智郡大社額 一位大社豐滿大明神

拾遺宰相入道教長卿真蹟金峯山弘法大師真蹟河內國觀心寺額 觀心寺

船橋經賢入道常覺真蹟河內國古市白鳥社額 白鳥大明神

高野山沙門悔焉真蹟 天照皇太神宮 瀧本坊昭乘真蹟 月華高

妙法院二品亮然法親王真蹟 權現 弘法大師真蹟信濃國善光寺額 善光寺

曼珠院二品良尚法親王真蹟播磨國印南郡曾根村天神額 天滿宮

弘法大師真蹟京師東山靈山國阿堂額 靈鷲山

聖護院宮道見法親王真蹟山城國愛宕郡日吉坂南新熊野社額 新熊野

野大權現

仁和寺覺深法親王真蹟武藏國豐島郡王子社額唯一王子宮

崇保院公寬法親王真蹟江戶下谷心法院中鳥居額二位稻荷大明神

蓮華光院大僧心道恕真蹟同上拜殿額稻荷大明神

筆者不詳大和國長谷寺鳥居額 功德成就堂

弘法大師真蹟大和國六峯泷川龍泉寺額龍泉寺

大職冠錄足公真蹟高林寺菅公真蹟越後國松山農家藏

近衛大相國家與公真蹟江戶小石川牛天神鳥居額天滿宮

堀川左大臣俊房公真蹟山城國宇治郡平等院樓門額平等院

卷之五

光明皇后宸翰參河國鳳來寺額後水尾院宸翰江戶東叡山寬永寺額

花園院宸翰相模國鎌倉圓覺寺山門額圓覺興聖禪寺

醍醐天皇宸翰丹後國天橋之智恩寺額

聖武天皇宸翰尾張國一宮額真清田天神

參議佐理卿真蹟筑後國一宮鳥居額高良玉垂宮

石川李亮賴直真蹟武藏國攝津郡川崎平間寺大師堂額平間寺

京極黃門定家卿真蹟大和國吉野郡川上社壯多古村秋光山心月院

藏時雨亭後柏原院宸翰京師嵯峨二尊院額

大覺寺宮寬深大僧心真蹟但馬國妙見山帝釋寺額

弘法大師真蹟下野國日光山滿尾社額女體中宮

持明院中納言基雄卿真蹟陸奥國鹽竈社額左宮 別宮 右宮

後光嚴院宸翰相模國鎌倉圓覺寺佛殿額大光明寶殿

卷之六

持明院權中納言基雄卿真蹟播磨國高砂社額

祐崇上人真蹟相模國鎌倉光明寺額勅額所

宸翰不詳但馬國一宮鳥居額二位勲十二等粟鹿大明神

小野道風朝臣真蹟丹後國天橋立籠社額二位籠之大明神

智覺禪師真蹟相模國新井閻魔堂額琰王殿

參議佐理卿真蹟伊豫國三島社額日本總鎮守大山積大明神

和書部六

七十五

小野道風朝臣真蹟丹波國井原石合龍寺額

後奈良院宸翰京師智恩院本堂額 大谷寺

九條准三后尚實公真蹟遠江國秋葉山鳥居額 種葉大權現

隨宣樂院一品公遵法親王真蹟 天淵 裏書天明五年

後西院宸翰京師泉涌寺藏 靈明 小野道風朝臣真蹟 二位勳公高野天

弘法大師宸蹟大和國法華寺村海龍王寺額

後奈良院宸翰安藝國嚴島社鳥居額 伊都岐島大明神

張即之真蹟京師泉涌寺額 東書七行

玄宗皇帝宸翰 補陀海山圓通空閣 裏書六行

持明院權大納言基時卿真蹟相模國江島岩本院額

釋自休真蹟安藝國嚴島經藏額 轉法輪

卷之七

弘法大師真蹟 真言院

筆者不詳 建春門

同上 宜陽門

同上 承明門

弘法大師真蹟 長樂門

筆者不詳 仁壽殿

同上 承香殿

同上 內衙門

同上 紫宸殿

同上 宣秋門

同上 永安門

同上 建禮門

弘法大師真蹟 常樂門

筆者不詳 左掖門

同上 溫明殿

同上 常寧殿

同上 校書殿

同上 清涼殿

同上 後涼殿

弘法大師真蹟 貞觀殿

靈元院宸翰京師西加茂靈源寺額

弘法大師真蹟 菩提門

藤木甲斐守敦直真蹟 不老門

弘法大師真蹟 南嶽門

佛光禪師真蹟相模國鎌倉建長寺閑山塔外門額 高山

張即之真蹟同圓覺寺浴室額

同上方丈額

夢窓國師真蹟同上祈禱殿西面額 祈禱 修心

土御門院宸翰相模國江島辨天宮額 大辨才天女

雲慈真蹟同國錄倉建長寺閑山塔中門額 西來卷

和書部六

七十五

神書一覽

七十五

宸翰不詳同上佛殿額 祈禱 龜山院宸翰同稱名寺八幡宮額

竹西真蹟同建長寺東門額 海東法苑 東書 崇禎元年十月日竹西書

筆者同上同西門額 天下禪林 東書同上

筆者不詳同山門額 建長興國禪寺 或云宸翰或云宋子昂書也

蘭溪禪師真蹟同常樂寺文殊堂額 秋虹

筆者不詳同圓覺寺祖塔門額 萬年山

同上同建長寺總門額 巨福山 或云趙子昂又云寧一山

魚準和尚真蹟同圓覺寺禪堂額 進佛場

佛光禪師真蹟同常樂寺方丈額 圓鑑

從三位源氏滿卿真蹟同圓覺寺祖塔額 常照

宸翰不詳山城國長谷村解脫寺額 八鹽山解脫寺 此額今在三井寺

參議佐理卿真蹟京師北岩倉大雲寺觀音堂額 大雲寺

宸翰不詳安藝國誓願寺本堂額 或云天智帝宸翰

後水尾院宸翰山城國幡杖圓通寺藏 大悲

宸翰同上 圓通 宸翰不詳陸奥國白川正雲山金勝寺 祈禱 西雨額

聖護院道澄准后真蹟 稱名院 後光嚴院宸翰丹波國神尾山金輪寺額

卷之八

昭高院道晃法親王真蹟京師祇園社鳥居額 感神院

宝鏡寺宮真蹟長門國阿武郡秋法光院金毗羅堂額 金毗羅大權現

後水尾院宸翰京師相國寺開山塔額 圓明

仁和寺覺深法親王真蹟陸奥國宮島道祖神長所額 二位道祖神

最上乘院一品公法親王真蹟下野國日光山男體權現額 男體大權現

神道長心二位卜部李兼卿真蹟武藏國久良郡金澤瀨戶三島明神額

清和天皇宸翰京師栗田口御日山太神宮額 日向宮

龜山院宸翰下總國香取郡香取新福寺額 香取新福寺

弘法大師真蹟伊豫國古三津村儀光寺額 真隆山

李三錫真蹟武藏國中鄉多田藥師額 玉島山 東書 朝鮮國雪月堂

清和天皇宸翰攝津國勝尾寺額

神書一覽 和書部六

七十六

宝永五年歲次戊子九月殺且常州水戸府丸山可澄序

卷第一 天子 後醍醐天皇 後光嚴帝 後西院帝 三人

親王 幸仁親王 一人 法親王 覺圓法親王より 道祐

法親王より至る 十二人 執柄 藤原良實より 藤原信尋

小至る 六人 大臣 藤原實行より 藤原公規より至る 五人

贈大臣 源義量 一人 大納言 源通氏より 源光貞より至る 十人

中納言 藤原資頼より 源綱教より至る 七人 參議

藤原長房より 藤原忠知より至る 二人 二位二位 源頼家

と清原杖賢より至る 四人

卷第二 四位 小野道風より 菅原宗矩より至る 百三十三人

卷第三 五位 源忠義より 平貞衡より至る 百四十八人

卷第四 五位 藤原教隆より 藤原正利より至る 百二十一人

卷第五 五位 源忠知より 源頼郷より至る 百十八人

卷第六 士庶 藤原欽夫より 光悦より至る 八十六人

卷第七 釋家 頼仲より 日信より至る 五十七人 連歌師

昌琢 一人

宝永八年二月上本

古押譜

六卷 七本 松崎祐之

卷首漢字の自序より天下許多の人史を載せ傳ふ善人の事にて不善人乃不幸なり天下許多の人賦より不善人の不幸をいへ不善人の幸なり後學縦横上下して其本を擇其微と彰をせんと欲す特よこれに符しこれに契しこれに階しこれに極し心を用ひて千萬なりこれに其髪を鏡視すこれに其心を用ひて京師ハ天府の國として舊刹古祠ハ曲物の教すこれに國家乃崇兵變の遺故は歴代の遺宝暨告命制論令號贈酬の文皆倭の元老源紀伊州牧君事以視の暇古好て輒す京の在日祐之とて四方に歴觀し古圖籍を披しむ積累年久し總素篋を滿既より古今を鑑し其のハ史なり史を徵すそのハ文書なり文書

と徴すしものハ押かり其庶乎幾揚し編成ハ則亦致古の編
 系年序正疑相錯純駁相襲るものごとく史の言人取
 取て意欲るれ速むるものごとく史の言人取
 の筆記るれ偏傍點畫以忽るものごとく史の言人取
 蓋極めく古書の獲るる往蹟の尚ふきとり今其押紙觀る
 其人以想ひ其名以聞る其実以釋めり其偏傍點畫の比
 則此亦以史の徴する符契を以て古
 階梯となすべくして彼幸不幸者の端由を以て往
 られ以貴族者に啓せらるる統之ゝあるを以て時を以て徳
 未歳冬至日洛陽松崎祐之江府芝濱の邸舎に書す
 新編古押譜篇目

- 卷之一上 天子 龜山院 後小松院 二人 親王 榮仁
- 親王 一人 源氏 定具より土岐政房に至る 八十四人

卷之一下 嚴松頼宥より後藤直風に至る 九十六人 附押六頁

姓名或ハ曆號或ハ官署明證有て世家家稱等以て勘へるもの遺るは惜
 故に毎氏の下に附收し以て後学の纂補に俟てられし也

- 卷之二 平氏 清盛より岡本重政に至る 五十二人 附押四頁
- 卷之三 藤原氏 成範より片倉景綱に至る 九十四人 附押六頁

- 卷之四 橘氏 橘正儀より山中長俊に至る 六人 高階氏
- 泰経より大谷吉継に至る 六人 菅原氏 前田利長堀秀政
- 二人 大江氏 匡房より毛利秀頼に至る 六人 附押一頁
- 清原氏 清元定清貞敏 二人 紀氏 浦上祐之より堀田
- 心信に至る 四人 中原氏 親能より攝津之親に至る 二人
- 附押二頁 三善氏 飯尾之種より布施公雄に至る 十六人
- 丹治氏 丹治宗行 青木一重 二人 越智氏 稻葉貞通
- 一柳直盛 二人 大中臣氏 奥田貞長 奥田家次 二人

中臣氏 藤堂家忠 一人 賀茂氏 氏久 一人 大神氏
 羽田心親 一人 滋野氏 直田昌幸 一人 宮道氏 嵯川
 親孝 一人 日下部氏 朝倉教景 一人 八木心信 一人 七人
 三宅氏 浮田直家 一人 豐臣氏 木下秀吉 一人 木下重
 堅 一人 秦氏 秦久弘 長曾我部元親 二人
 多良氏 大内弘世 一人 山口心弘 一人 八人
 卷之五 諸氏 須賀清秀 一人 犬塚家續 一人 百十一人
 卷之六 雜纂 得者并官署者 左衛門尉家頼 一人 民部少輔
 秀清 一人 得者者 親宣 一人 秀雄 一人 二十五人
 得別號者 行圓 一人 如雪 一人 十人 得家號官署者
 二部勘解由 一人 種村薩摩守 一人 三人 得官署者
 丹波守 一人 右兵衛尉 一人 二十八人 附押十四頁 釋氏
 惠鎮 等緣 二人 心徳丙申六月刻
 古今茶人花押藪 一卷

此書作者詳し、古今茶人東山殿より千宗守に至るまで八十人
 の花押あり、その小傳に附す又珠光より三谷丹下に至るまで
 五十四人の花押あり、考す者、標し、これ小傳のあり、卷
 末に杭茶記に附す、延享三年素清假字の序より同年十月刻
 萬寶全書 十三卷 菊本嘉保

卷之一 本朝西印傳上 名畫上代より僧宗仙に至る百二十五人の傳
 并し印文あり、卷之二 同中 雪舟より桃林に至る百七十八
 卷之三 同下 専門家狩野心信より雪山に至る七十三人 雜傳 尊像
 元禄癸酉季冬、菊本幸甫齋跋
 卷之四 唐繪畫印傳全 唐繪畫高より鄭澤に至る百七十八人
 卷之五 和漢墨跡印畫全 隆蘭溪より黙菴に至る八十八人
 本朝古筆諸流目錄全 大師流より傳内流に至る二十八家
 古來流行御手鑑目錄全 切百三十五 短冊六百十六 慶安四年

卷之五 破風
卷之七 古瀬戸

卷之六 大名物 唐物

同

五卷

同上

卷之一 茶入 後室 國焼

卷之二 天目 茶碗

卷之三 樂燒茶碗

卷之四 雜記 茶扱 花入 茶箱 壺

卷之五 同 水指 釜 碗

同

四卷

同上

卷之一 茶入 藤四郎 金華山 破風

卷之二 同 唐物 古瀬戸 春慶

卷之三 掛物 歌之物 小倉色紙 墨跡

卷之四 香爐 墨 盆 香合 瀧本坊七種名物

已上三部寛政元年刻

同

二卷

同上

卷之一 綴子 金襴

卷之二 間道 雜載

古

寛政三年辛亥冬刻
錦繡譜 写本

一卷

綴子 金襴 銀襴 間道 紗金 印金 風通 海氣 等々の類と
りちて地紐 模様 かつひのり ことごとく 價付 附す 卷末
江田世茶の印金考 あり

和

漢書書畫一覽

一卷

凡例より書畫一覽原刻 明和八年に公布す 今原刻の訛闕を補正し
新撰の二字に冠して 新撰 梨栗 壽す くれ 古今諸名家の履歷
得く 詳なるもの 或は其地方より 他邦の 闕之 式
遺物す 其の ありし 年 取 流 にも 撰定 全備す の 日
す 其 思 先 此 上 本 所 趣 する の 采 覧 の 君子 の 刪 訂 訂 訂
俟 たり ○ 原刻 本邦の 書家 八 三 筆 三 跡 と 首 漢 二 王 と 録 せ
は 画 却 雪 舟 古 法 眼 と 脱 せ ず の 撰 次 其 所 と ぼ ぶ の 誤 固 滿 ず
是 今 蒐 收 所 大 抵 東 山 殿 時 代 の 前 後 あり 昭 代 の 當 今 及 び

拾葉集ノ載リのり

犬追物語

一卷

此書ハ正保四年薩州侯武州ノ竹ノ犬追物語ハ興行セルノ次第ヲ林春齋ノ筆記セルノなり

本朝五傳

四卷

狩野永納

本朝上古ノ五名ノ傳ハ漢文ニ書ク卷末ニ掛物ニ裱シ寸法故實業ノ目録ト同シ漢文ニ書ク卷首ニ水納ノ自序アリ

本朝書籍目録

写本

一卷

大外記業忠

俗ニ御室書籍目録ト稱ス大外記業忠ノ本也永仁二年八月四日書キマシ師名在首ノ目録ハ日本書籍物目録ト同シ其部ニハ

- 神事 帝紀 公事 政要 格ノ式 氏族 地理 類聚
- 字韻 詩家 和歌 和漢 管ノ絃 盤ノ書 陰陽 人ノ傳
- 官位 雜ノい 雜ノ鈔 假名 已上二十一篇ナリ

○奥書ノ以テ和寺宮本ノ書ニ普ク廣ク院ニ被シ尋ク之時注文ニ○又レ此抄入道大納言實冬卿密ニ所シ借ル賜レ之本也 永仁二年八月四日書キマシ師名在判○一本此書ノ卷末ニ諸家名記一卷以附スルハ記録ノ目録トナリ 李ノ部王記ノ嚴記ノリシルニ七十二部トリケルハ其ノ官位姓名ハナリ

日本書籍考

一卷

林道春

日本紀古事記舊事紀ト近代ノ雜記トイフルニ百二十部ノ作者卷數ヲ其書ノ大意ハナリト羅浮子ノ傳ノの奥書ナリ

經典題說

一卷

同上

經書ノ名ハ奉ル其書ノ大意ハ記ス和書ノ撰ル方ヲ示ス也 日本書籍考ト合テ刻スルハ以テナリ

和板書籍考

十卷 五本

幸島宗意

- 卷之一 神書
- 卷之二 儒書
- 卷之三 武書
- 卷之四 史傳雜記
- 卷之五 醫書
- 卷之六 諸子百家

卷之七 詩文尺牘 卷之八 和歌 卷之九 和字諸書
卷之十 字書法帖

○此書のすくすく和漢の書籍慶長年中より元禄年中よりして
邦々刊行すもの数百部あり作者卷数大意片假字とあり
元禄十五年壬午二月上本す

辨疑書目録

三卷 中村富平

卷之上 同音書目 同名書目 兩名書目 古今書目 略名書目
讀曲書目

卷之中 植字書目 足利書目 落卷書目 落紙書目 本朝作
者書目 有名未出書目

卷之下 名教書目 類書書目 書字書目

○凡例云此辨疑書目録は著すことと書名疑似の間をハ混淆錯乱
一一辨別せざるはめなり因く博く和漢の典籍を索搜し
題号ハ同異混乱すは辨ずべきのハ今こゝにこれを辨ず只

書肆の兎草はらへてこれ因く人の求む應じて過すれり
く欲すの 又凡書名ハ編次すこと代は以て前後せず
内外以て條列せず其類ハ觸覽すべしなりんかあし 又凡書首
小出す同音書目ハはらへて五音基終ハ類の如き同音異義或ハ五位圖
五音圖の如き音相違ハ混へやすきものし又文字今ハ同じ
きものハ因く同名書目ハはらへてこれ收む其中ハハニニ字
加損ハ別ハやすきものハ谷響集ハ寂照堂谷響集ハ
如きこれなり今同名書中ハはらへて世人ハハ田各稱して兩
書混淆すの類ハはらへて次に兩名書目ハ一本二名或
ハ二名兼稱すものハ集む取分韻略と重韻と呼ぶものハ
かり又古今書銘の變改せず知んばなりんかあし太子傳備考の如
き今改めく太子傳鼓吹の如きハ人ハハ惑ひかりんかあし
故ハ古今書目の一條ハはらへて此等の書名ハはらへて
新板書目録ハ本名ハはらへて板行せざる人ハはらへて

らるる書店に扱ひ求めんと欲すれども得ずりしが、自他の煩悩
かりし故に今其一條だけ取り出しの書目なり。又、植字本足利本
落卷本落紙本書字本等、至るくこれ予が詳しきものなり。其
て此のハ脱誤多し人及び其他の書目も亦何ら失考差謬あり
く、或る人同志の人より備へて補ひ誤れども、予は幸甚
しん。○此書片假字を以て注釋す。宝永六年十一月富平漢字子の
自序あり。同七年庚寅上木す。

書籍名数

卷之上 自一部至四部 卷之中 自五部至十部 卷之下

自十一部至二十部

○此書和漢書籍の標題数字を係りよめ、其纂考をめぐりて、
あつて平安の書肆臨泉堂中村百川治重が著す。○天明辛丑
初夏蘊古堂主人漢字の序安永甲子冬澤田重淵漢字の跋あり。天
明辛丑の秋上木す。

合類書籍目録大全 十二卷

本朝小て書籍が板小刻む其始とあり。下、夢窓國師多く佛書詩
集等が板小刻されて其が、兄弟子妙葩が跋あり。又高師直が板行せし
佛書小はすれ、らゆ、又角倉子市太泰は、傳は史記及謠の中と
開板せし。近世は刻板ハ慶長の末、庭訓即用集が、有るが寛永
六年の、より多し。かあり。と、此合類目録ハ、夢窓國師時代より明和の
頃より、より、か、類、らりて、遍く、これ、の、せ、と、の、巻、ね、他、者、と、附、
子集 國史 神書 有職書 儒書 繪書 諸子
丑集 文集 書翰書 詩集 詩話 聯句書
寅集 歴史 傳記 故事書 雜書 字書 韻書 印譜
卯集 醫書 外科書 鍼灸書
辰集 諸宗經 未書類 諸宗折經 僧傳 天台宗書 日蓮宗書
巳集 俱舍宗書 律宗書 華嚴宗書 法相宗書 真言宗書
午集 禪宗書 語錄類 植字板語錄類

小至一巻まで一千餘年が同漢土ハ漢魏より今の清朝の乾隆年中一の
しつとく二百餘年が向の人々及著述の書物ヲ奉
卷之一 卷之二 皇國撰述書

上古部 養老神龜の頃より自治建仁の頃に至る
中古部 元久建永の頃より自治應和の頃より
近代部 明德應永の頃より天文文祿の頃より
當時部 慶長元和の頃より寛政年中に至る

卷之三 卷之四 漢土撰述書

上古部 漢文帝の時より隋煬帝の大業年中に至る
中古部 唐太宗の貞觀の頃より元文宗の至正の頃に至る
近代部 明の太祖の洪武の頃より思宗の崇禎の頃より
當時部 清の世祖の順治の頃より弘曆の乾隆年中より

○上より下までの代より作者が配當して其人々姓名字別号と
ありし著述の書の標題卷数をあげて字中と唐本とのありしと

標題のしつとくは圖點ヲ附す○卷首は目錄のしつとく作者數百人の
姓名はわづらひ其中に 神学家 儒学家 佛学家 國学家 歌学
家 連歌家 醫學家 物産家 天文家 兵学家 曆学家
雜学家 詩文家 書畫家 印刷家 小説家 俳諧家等
く備へり其書體の大體は左の如し
白王國近代部の中

林道春

羅山涉獵集 百卷
夕顏卷夜話 十二卷
其餘數十部總計百五十餘部
羅山文集 六十卷
神社考 三卷
七書鈔 四十五卷
土佐日記附注 二卷

物茂卿

論語微 十卷
滿文考 一卷
總計四十餘部
明律國字解 三十七卷
欽錄 二十卷
樂制篇 一卷
南留別志 五卷

山崎敬義

文會筆錄二十九卷

垂加文集八卷

垂加文集續五卷

大學啓蒙集七卷

日本書紀註十五卷

神代風葉集九卷

總計五十餘部

釋契沖

萬葉代匠記二十卷

古今餘材抄二十卷

類字名所補翼抄八卷

古語拾遺抄二卷

漫吟集二十卷

河社五卷

總計二十餘部

北村季吟

湖月抄六卷

萬葉拾穗抄三十卷

八代集抄百八卷五本

山乃井五卷

續山の井七卷

誹諧合六卷

總計三十餘部

賀茂夏淵

萬葉考二十卷

冠辭考五卷

勢語古意七卷

くひまがひ 五卷

くひまがひ 一巻

縣居歌集一卷

總計三十餘部

漢土近代部の中

王世貞

弇州四部稿心集百七卷

同續集二百七卷

同別集百卷

奕問一卷

宛委餘編十六卷

短長一卷

史乘考語十二卷

文章九命一卷

觚不觚錄一卷

總計二十餘部

陳繼儒

寶顏堂心秘笈三十六卷

廣秘笈八十五卷

晉秘笈十七卷

枕談一卷

書畫金湯一卷

君幸碎錄一卷

香案牘一卷

長者言一卷

陳眉公十集六十二卷

總計三十餘部

漢土當時部

康熙帝

佩文齋韻府 二百本

廣群芳譜 三十二卷

淵鑑類函 四百五十卷

全唐詩 九百卷

康熙字典 四十卷

欽定四經 百五卷

三禮義疏 百七十八卷

欽定四書文 二十卷

十五省通志 七百七十卷

總計二十餘部

李漁

笠翁一家言 六卷

閒情偶寄 八卷

連城壁 十二卷

連城壁後編 四卷

十二樓 十二卷

芥子園畫傳 十二卷

總計二十餘部

此例の外は和漢とも一人一書の著述又闕名の書ハ卷末に別目録付五類ありてこれ收む

世俗淺深秘抄 写本 二卷

上卷 上皇御幸時殿上人必不可依位階事 以下百四十六條

下卷 朝觀行幸上皇御袍色事 上下百三十六條

此外菩提院入道關白乃說等代載

奥書云々右世俗淺深秘抄者以藤兼房卿古本卷物不違一字書

字令一校畢 宝永茅六曆仲春 兵部卿親王 京極一品宮

海人藻芥 写本 一卷

僧心宣守

此書ハ中御門中納言宣方卿の禰子惠命院僧心宣守乃作し

雜に其政実なきはあらずしるし○年山寺圃は強飯姫飯のり

此書は引て曰く家御膳飯者強飯也執柄家等如此姫飯全

畧儀也但人々依好悪用之強飯時飯湯也而近代姫飯時

閑居友 写本 二卷

二卷

本朝書籍目錄に此書が慈鎮の作とす按ずると年山寺圃は

曰く其沖のりしり同居の友と申書も慈鎮の作とす以て推

し入宋のりしり尾證月房慶波上人作とす此信長

隆の餞別の歌とす入宋のりしり又明惠上人とす

群書一覽

和書部六

語園

明惠傳も又末の集を入つて僧の道心者として長瀬子といふ
ころもかれはさういふれしと評せしは閑居の友より出せし
漢土の故事は諸書より採りてくれば譯したるはなる巻末
に桃李老人採りてくれば桃李老人の兼良公の別号なり
寛永四年刻

新語園

十卷 了意

本朝語園

十卷

兼良公の語園なるはく漢土の故事は片假字にてあせり
此書作者いふところなりすれども兼良公の語園なるはく
本朝の故事は諸書より採りてくれば俗耳に笑はれや
澤やうとれを巻末より採りてくれば俗耳に笑はれや
卷之一 天地 時令 帝王 官姓 卷之二 人臣 孝子
卷之三 和歌 卷之四 詩文 才智

卷之五

法令 書籍

書畫

雜藝

卷之六

武勇 逆臣

強力

卷之七

醫陰

白相

管絃 雜事

隱幽

卷之八

好色

無常

卷之九

飛仙

釋文

卷之十

天地

神祇

託宣

余祀 影答 怪異 妖靈 獸蟲 草木 器物

毎條の下は兼良公の語園なるはくして引書の名はうせり○室永三
年正月孤山居士の序あり同年二月上末す

簞 竹籃

二卷

一名金鳥玉兒集といふ安部晴明の作といひ付つれど真偽は詳
しせず陸陽家の書といふ宅相のゆかりも是なり此書の末書十餘
部あり

白玉和通曆

三卷

中根元桂

多田義俊といふ日本古来曆学をくくす故に千支も何も遠
くくろりいと未代の学者むくはるが記すよ今に曆よりせ

群書一覽

和書部六

新撰菟玖波集 元禄五年正月竹洞野節の序より同八月四日上本す

卷之一より卷之六より上りて 四季連歌 卷之七 神祇

卷之八 釋教 卷之九十 志心上下 卷之十一より卷之十六より上りて

雜 卷之十七 羈旅 卷之十八 賀 卷之十九 連句

連歌 雜句 卷之二十 發句

假名真名の両序二条良基公の作く〇奥書より兔玖波集可被准

勅撰可有御存知之由 天氣所依也 延文二年後七月十一日

左中辨時光 謹上 刑部卿殿 追申 依武家奏聞如此御

沙汰也 〇卷末に作者數十人の爵里に附す 〇或書より櫻井基佐

ハ浴陽の人剃髪 〇永仙と号す連歌にせり 〇宗祇宗長同門の

人から宗祇新撰菟玖波集に撰せり 〇其基佐の句に入るは

これに憤りて中よりなく 〇宗祇の句に嘲時す 〇其書より

書一と云

遙見筑波錢便入 不諭上手與下手

〇此書は筑波集と名づくも人王十二代景行天皇の御子

日本武尊東夷にたつたましく甲斐の國をゆつたまひて酒

折とす 〇其書は筑波集と名づくも人王十二代景行天皇の御子

折とす 〇其書は筑波集と名づくも人王十二代景行天皇の御子

折とす 〇其書は筑波集と名づくも人王十二代景行天皇の御子

折とす 〇其書は筑波集と名づくも人王十二代景行天皇の御子

折とす 〇其書は筑波集と名づくも人王十二代景行天皇の御子

折とす 〇其書は筑波集と名づくも人王十二代景行天皇の御子

折とす 〇其書は筑波集と名づくも人王十二代景行天皇の御子

折とす 〇其書は筑波集と名づくも人王十二代景行天皇の御子

折とす 〇其書は筑波集と名づくも人王十二代景行天皇の御子

折とす 〇其書は筑波集と名づくも人王十二代景行天皇の御子

折とす 〇其書は筑波集と名づくも人王十二代景行天皇の御子

折とす 〇其書は筑波集と名づくも人王十二代景行天皇の御子

折とす 〇其書は筑波集と名づくも人王十二代景行天皇の御子

折とす 〇其書は筑波集と名づくも人王十二代景行天皇の御子

折とす 〇其書は筑波集と名づくも人王十二代景行天皇の御子

折とす 〇其書は筑波集と名づくも人王十二代景行天皇の御子

折とす 〇其書は筑波集と名づくも人王十二代景行天皇の御子

折とす 〇其書は筑波集と名づくも人王十二代景行天皇の御子

折とす 〇其書は筑波集と名づくも人王十二代景行天皇の御子

折とす 〇其書は筑波集と名づくも人王十二代景行天皇の御子

新撰筑波集 宗祇の筑波集の書體より宗鑑の犬筑波なるは

新撰筑波集 宗祇の筑波集の書體より宗鑑の犬筑波なるは

新撰筑波集 宗祇の筑波集の書體より宗鑑の犬筑波なるは

新撰筑波集 宗祇の筑波集の書體より宗鑑の犬筑波なるは

新撰筑波集 宗祇の筑波集の書體より宗鑑の犬筑波なるは

新撰筑波集 宗祇の筑波集の書體より宗鑑の犬筑波なるは

新撰筑波集 宗祇の筑波集の書體より宗鑑の犬筑波なるは

新撰筑波集 宗祇の筑波集の書體より宗鑑の犬筑波なるは

和書部六

新撰筑波集

百一

く俳諧の連歌のあつじ季季の白序のり

筑波問答

一卷 二条良基公

奥書云々此一帖者自向自答後福光園院攝政御作也
御奥書者應安第五十二月也云々良基公の自序は又扶業
拾葉集ののせりせり

連歌新式

一卷 二本

後光嚴院應安年中二條良基公救済周阿相議一連歌古
来の式は刪潤ヤ追加も良基公の作なり新式今案ハ後光
園院亨徳年中ハ一條禪因兼良公宗砌心同く新式
ナリハ二度の追加ハこれハ増補セリ云々後相原
院の文龜年中ハ夢菴肖相道遙院殿ハ談合して宗砌
宗祇ハいづれハの諸名匠の託けらけ雑歌の式ハ云々新
式完備ナリ

魚言抄

二卷 三本 木食上人應其

此書連歌式目の濫觴のりはの詞四季の詞季のりが
りらつじ木食上人應其慶長のりらつじの作ハ應其慶長
二年行年ハ二十ハ天正元年より十二年木食上人寺社を修造
すハ八十所高野山に住すハ二十五年よりハ此書一本角倉
氏の藏板ハ光悦の筆跡と云々刻す嵯峨本ハ稱すものなり
○木食上人の跋云々此上下卷ハ天正のりらつじのりらつじ
同ナリハ孟冬ハ比ハ案ハ紹巴法師の披見ハ入リハのりらつじ
ハ解ニ校合と云々煩重ハけり用捨のりらつじハハハハハハ
雅ハ木食草衣の器ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
云々南山ハ食沙門○慶長二年大覺寺宮空性親王の奥書云々
此魚言抄之作意者ハ奥書在之不應被成ハ觀覽御感不斜故
了留之任ハ勅定染筆者也○法眼紹巴奥書云々此魚言抄之外
被染ハ勅筆再大覺寺殿ハ奥書也一覽之次上人依所望記之也
慶長四年神龜月上旬○又奥書云々以木食興山上人自筆之本

このハ蓋すべしは、櫻桃ハ是郁李の属、
から殊より、秋邦のさくらハすれをち垂絲海棠、
櫻花を品評すもの、皆二物の異、
詩引く以てこれ証す何ぞ、
我邦のさくらハ、
の、何ぞ以て、
映松枝、
察せず、
垂絲海棠、
櫻と指、
○宝曆八年、

梅

品 二卷 同上
怡廣齋松園主選著 門人 甲賀敬元尚之 今枝栄濟子濟 男典
子勅 全校 卷之上 白梅類 早梅類 海棠類 至二十九種

卷之下 紅梅類 鶯鶯梅類 縮緬紅梅類 二十五種
雜色類 黃梅類 墨梅類 至六種 骨梅類 有名未識類
有梅名非品類 ○卷首ハ甲賀敬元漢字の序、
八年八月男典漢字の跋、
怡顔齋著書の中、
品一卷、
二卷 廣参

春

草 二本 二卷 伊勢貞丈
此書ハ、
流、
祖、
卷之上 弓矢の始、
こめ石の、
水破兵破、

かくは秋の日と書はせむすれたら秋まきと名はくぬり 安永二年丁酉九月廿日 伊勢自丈花押

冬、草 写本

一卷 同上

空穂考 飾釵考 甲由名考 洗革鎧考 弓材考 雜慶七道具考 武士字文問答等十二條○此四部が合せし四本草と称す

菅像辨 写本

一卷 同上

此書巻首の文云北野の天神の自画の像よりその世に多くつらとをりしは繪の作面相たる怒の事をいひしは装束して黒袍をきせしめ肩臂のいらたは稜たら其外おせめしよりて強壯衣束しゆ負丈按すし右のくく画きしこといひし自画よりしは人の画きたるは人の画像と貴くせんため菅丞相の自画といひ侍りしものかべし今左ふりし趣と考へるの自画よりしは我像画きし今にふりしは菅丞相

天神の面相を写くに怒の事をいひしは画きたるは誤なり
天神の怒と強壯衣束を画くはあききき菅公の像袍の事なり
袍のふりしは 袍の袖長の事 裾の長なり 社の事 平緒の事
太刀の事 表袴の事 笏の事 沓の事 菅丞相面傳の事
漢唐天神の像なり 菅家の像天神の像なり

本朝事始 写本

二卷 一本

巻首より 萍給事 法官 信西 櫻々々々々 漢字々々々々々
巻之上 皇居 温明殿 神宮 寺 院 臺 庫藏 鳥居
學校 折挂法 蹴鞠 圍碁 象戲 巫祝 封域 二十二社
内侍所 番神 方角之主位 職事 進勤之法 揚名 馳國之官
巻之下 冠 烏帽 子 禮服 禮冠 衣服 狩衣 舞樂
狹流樂 僮 樂器 和琴 天磐 笛 振拍子 柝人
櫻人 曹 甲 指 鉦 鈿 曆

群書百一覽

和書部六

下

真書云々本朝事始二卷信西入道之家記也專其書法倣江平之二家尤袖珍之秘記 建武二年乙亥四月下浣日 中散大夫橋本末女書寫 又云本朝事始二卷依梶井御門主之本傳寫焉尤有職之一助也 天正三年十月廿五日 從四位上中原師富○按すよ貝原好古の和事始云々中知いし一入書目考考すよ日中事始より其の書目今世民間より納言入道信西の作すし一〇〇位てうれさし冊子十葉より子記の書無誓の言なり人の体化なりしもの也
 将基名駒之記 写本 一卷 水魚瀨兼成

将基馬の銘の筆法は堪へず人々れは云々水魚瀨兼成の男子なり高倉永家の子親具其養子なり兼成実子なり氏成と号す云々格く親具家督の辭一割髪一齋と号す能書の名に豊臣秀次公一齋なり云々将基馬の銘云々一〇〇水魚瀨家馬の銘云々書す如かり云々

詩仙堂志

四卷

三橋成烈

城州一条寺村は石川丈山翁の遺跡の詩仙堂なり其の堂に藏すくろりの器物の圖詩仙の額の圖像なりびは丈山翁の石川のそ及び扁額の拓碑流字と撰字云々これに刻す○寛政庚戌孟夏文章博士菅原為徳序○同九年七月柴邦彦序なり○又明和七年仲春冷泉為村のよをせたり五首の和歌云々卷首のせたり寛政九年上木す

圓珠

經 写本

二卷

本邦いし云々けつめれ湯語の伝わり湯語は湯語なり此書は世務と経のハ鄭玄が疏曰仲弓子游等撰定す論ハ論なり此書は世務と経論すべし好以くの故ハ論なり云々圓轉云々窮なり故ハ輪なり云々萬理と蘊合す故ハ理なり云々一篇章序なり故ハ次也云々何日安の集解云々かからんや明經博士の註なり小口書

も圓珠經と云く三百年以前の書と云ひつゝあづりしもの
なり。一明經道の人ハ論語ハ圓珠經と云ふ。○按ずる本朝文粹卷之九夏目右
親衛源將軍陪讀初め論語ヲ讀み。○按ずる本朝文粹卷之九夏目右
源順文り。康保三年夏右親衛源將軍招翰林藤原學士
讀論語時人以為不恥下向能守文宣王之遺訓焉何則俗
人未必取賢知以為論語者幼學之書也不足於晚學不知其先
聖微言圓通如明珠之義矣。○の文は元々八百年前の書
と系珠徑に梅澤のゆゑれり。○又按ずると今義解卷第二
曰凡經周易尚書周禮儀禮と記毛詩春秋左氏傳各為一經孝
經論語學者兼習之。又曰凡教授ニ業周易鄭玄王弼注尚
書孔安國鄭玄注禮毛詩鄭玄注左傳服虔杜預注孝經
孔安國鄭玄注論語鄭玄何晏注と今の又ハ經書の古
注ものやく本朝はたし今もハ作る漢土

宋以來亡り。○の多し。入行ら。後子。あまの義。ハ
北島玄惠は下。一條禪窓兼良公の尺素往來
玄惠は下。獨清軒健叟。考す後醍醐帝の時の人なり
南約より以前ハ行は。古。ハ
中原師光が跋り。東見記も。ハ

命世才

六卷

趙註孟子乃古本なり史記ハ命世之宏才なり。ハ
外題と云ふ。此本ハ。ハ
孟子の本朝ハ。ハ
治忠左府賴長公の台記ハ永治元年ハ孟子十卷を。ハ
音義二卷ハ。ハ
○老人雜誌ハ老人の。ハ
中ハ其の。ハ

內宮假殿遷宮記 治承公卿勅使記 應公卿勅使參宮簿 神鳳抄

古老口實傳 詔刀師沙汰文 高宮假殿遷宮記 小朝熊神鏡沙汰文

八幡愚童訓 石清水宮畧緣起 宮寺緣事抄 明德放生會記

宗清法印立願文 後伏見院御願書 賀茂皇太神宮記 賀茂雜記

賀茂祭繪詞 後伏見院御願書 春日驗記 春日社記

春日小社記 春日神木入洛記 神葉日記 大輪神三社鎮座次第

大和神社注進狀 廣瀨社緣起 日吉社神道秘笈記 日吉神輿入洛記

北野古緣起 同假字緣起 西聖記 菅神授衣記

天滿宮託宣記 菅家御傳記 最鎮記文 梅城錄

廿二社本緣 廿二社注式 豐秋津島卜定記 大畧國一宮神名記

神名帳頭注 尾張國神名帳 伊豆國神階帳 上野國神名帳

藤森社緣起 熟田宮實平緣起 荏柄天神緣起 宇都宮前神奇瑞記

竹生島緣起 走湯山緣起 箱根山緣起 松浦宮本緣

造殿儀式 八幡御幸次第 平野行幸次第 神馬引付

太神宮參詣記 八幡社參記 春日社參記 日本紀竟寧和歌

太神宮三所神祇百首 雲州樋河上天淵記 卷第二十九至卷第五十九 帝王部 十五卷

神皇正統記 續神皇正統記 椿葉記 皇代記

皇年代畧記 踐祚部類抄 天祚禮記職掌錄 本朝世記殘篇

庭槐抄 白上帝記抄 六代勝事記 五代帝王物語

日吉疊山行幸記 元德舞御覽記 書寫山行幸記 花御所行幸記

北山殿行幸記 同真名記 室町殿行幸記 同

永德以下行幸勘例 聚落茅行幸記 天正廿年行幸行列 御幸始部類記

後光嚴院御幸始記 天治高野行幸記 天承兩院慈野御詣記 寬元加茂御幸記

建長加茂御幸記 文應石清水臨幸記 弘長兩院石清水宮御幸記 負和天龍寺臨幸私記

弘安石清水御幸記 延慶八幡御幸記 文永龜山殿御幸記

應永御幸記

卷第四十四至卷第五十九 補任部 十六卷

齋宮記 齋院記 攝關補任次第 辨官補任

職事補任 藏人補任 樂所補任 將軍執權次第

足利家官位記 關東評定傳 若狹守護職次第 同今官名領主次第

類聚大補任 豐受宮祓禊補任 熊野山別當次第 鶴岡社務職次第

同御慶司職次第 同執行職次第 同學頭職次第 同執事職次第

僧綱補任 僧官補任 護持僧次第 東大寺別當次第

天台座主記 東寺長者補任 仁和寺諸院家記

卷第六十至卷第六十三 系譜部 四卷

皇胤紹運錄 諸門跡譜 坊官系圖 中臣氏系圖

大中臣氏系圖 菅原氏系圖 大江氏系圖 橘氏系圖

紀氏系圖 小野氏系圖 高階氏系圖 清原氏系圖

中原氏系圖 小槻氏系圖 和氣氏系圖 丹波氏系圖

安部氏系圖 加茂氏系圖 豐原氏系圖 巨勢氏系圖

卷第六十四至卷第六十九 傳部 六卷

上宮聖德法王帝說 太子傳補闕記 大職冠傳 武智麻呂傳

和氣清麻呂傳 田村九傳記 白著翁傳 女院小傳

三十六人歌仙傳 中古歌仙傳 日本往生極樂記 續本朝往生傳

仁和寺御傳 名匠畧傳 鑑真東征傳 相應和尚傳

慈惠大僧心傳 道場法師傳 性空上人傳 婆羅門僧心碑文

興心菩薩傳

卷第七十至卷第七十四 官職部 五卷

官職秘抄 職原抄 百寮訓要抄 百寮和歌

官職難儀 女房官品 任官勅例 任太政大臣記

卷第七十五至卷第七十八 律令部 四卷

律 疏 殘編 律 裏書 金玉掌中抄 裁判至要抄

法曹至要抄 令後成恩寺殿御抄

卷第七十九至卷第一百十一 公事部 二十五卷

內裏式 新儀式 本朝月令 雲圖抄

九條殿年中行事 小野宮年中行事 建武年中行事 年中行事秘抄
 年中行事歌合 神祇官年中行事 東宮年中行事 三節會次第
 釋奠次第 建久五節記 綾小路俊量卿記 朔旦久至部類記
 後鳥羽院御踐作次第 後三條院御即位記 心親西院御即位記
 永仁御即位用途記 文安御即位調度圖 御禊行幸即下次第 延慶御禊行幸記
 大嘗會御禊部類 康治大嘗會記 心安大嘗會記 永和文嘗會記
 永享大嘗會記 大嘗會延引勘例 長元大嘗會御屏風本文
 御讓位部類記 寬元御讓位記 永德御讓位記 天皇御元服部類記
 天皇冠礼部類記 主上御元服上壽作法抄 立坊部類記
 東宮御書始部類記 上卿故實 作法 故實 四節八座抄
 參議要抄 羽林要秘抄 新任辨官抄 結政初參記
 母貝首秘抄 蓬萊抄 夕拜至要抄 柱史抄
 内局柱礎抄 清辨眼抄 除秘抄 蟬冕異抄
 保元四年大間 江家次第抄

卷第百十二至卷第百二十一 裝束部 十卷

雅亮裝束抄 助魚智秘抄 飾抄 後照念院殿裝束抄
 唯心院殿裝束抄 因道院殿裝束抄 次將裝束抄 三條家裝束抄
 鷹衣抄 布衣記 永細裝束抄 裝束雜事抄
 物具裝束抄 衛府具抄 深窓秘抄 撰塵裝束抄
 袷唯子着用時節 裝束寸法抄 壯衣束裁縫秘抄 女官飾抄
 御禊行幸服色部類 諸鞍日記
 卷第百二十二至卷第百三十七 文筆部 十六卷
 懷風藻 凌雲集 文筆秀麗集 經國集 殘篇
 扶桑集 殘篇 本朝麗藻 魚頭詩集 都氏文集 殘篇
 田氏家集 菅家後集 江吏部集 法性寺殿御集
 雜言奉和 粟田左府尚齒會詩 賦光源氏物語詩 天德關詩行事略記
 應和善秀才宅詩答 永承侍臣詩合 天喜殿上詩合 資實長兼百番詩答
 泥之草 續千字文 富士山記 康和二年狐媚記

銅雀研記

匡房卿暮年記 遊女記

傀儡記

浦島子傳

續浦島子傳 玉座下町社表書

新猿樂記

作文大體

童蒙誦韻

卷第百二十八至卷第百四十五 消息部 八卷

雲州消息

貴嶺問答 十二月往來

新十二月往來

異制庭訓往來

遊學往來 尺素往來

釋氏往來

山窓往來

後花園院御消息 西行上人消息

定家卿消息稱每月抄

越部禪尼消息

東野州消息 東素山消息

消息耳底抄

書札禮

今川了俊書札抄 大館常興書札抄

書札作法

女房筆法

卷第百四十六至卷第百二十二 和歌部 百五十七卷

拾遺和歌抄

後葉和歌抄

續詞花和歌集

玄玉和歌集

現存和歌六帖

秋風抄

雲葉和歌集

新和歌集

續門葉和歌集

續現葉和歌集

臨水和歌集

藤葉和歌集

玄玉集

今撰和歌集

柳風和歌集

新撰和歌集

金玉集

三十六人撰

後六人撰

新三十六人撰

為家卿十首

師兼卿十首

宗良親王十首

為尹卿十首

文明御着到十首

白川殿七首

龜山殿七首

堀河院御時百首稱太郎百首

永之四年百首稱次郎百首

久安百首

正治院百首

建保名所百首

弘長元年百首稱七王集

丹後守為忠家百首

木權頭為忠家百首

句題百首稱五王集

朗詠百首

俊成卿五社百首

國冬朝臣祈雨百首 為兼卿鹿百首

後感恩寺殿南都百首

道助法親王家五十首

新古今集竟宴和歌 續古今集竟宴和歌

文治女御入内御屏風和歌

昭慶門院御屏風和歌

最勝四天王院名所障子和歌

大江千里句題和歌 純師丘家曲水宴和歌

宗尊親王三百首

為理卿七夕七十首

在民部卿家歌合 寬平中宮歌合

延喜亭子院歌合

同陽成院歌合

同亭子院有心魚心歌合

天德内裏歌合

天德堀川中納言家歌合

同系大納言家歌合 長元大納言家歌合

同賀陽院水閣歌合

長曆涼太納言家歌合

長久徽殿御歌合 永承祐子内親王家歌合

天喜皇后宮春秋歌 治曆定細朝臣家歌合 同禊子內親王家歌合 同親王家歌合
 同日保殿歌合 延久氣多宮歌合 承保攝津守有細家歌 承曆內裏歌合
 應德若狹守通宗朝臣女子產歌合 實治高陽院歌合 永長東塔東谷歌合
 天仁山家五番歌合 長治源廣繼家歌合 永冬修室相家歌合 元永內大臣家歌合
 同內大臣家歌合 保安園白內大臣家歌合 大治花林院歌合 同西宮歌合
 同南宮歌合 同住吉社歌合 長承中宮萬頭輔家歌合 久安家成卿家歌合
 永曆清朝朝臣家歌合 永方重家朝臣家歌合 仁安經盛朝臣家歌合 嘉應實國卿家歌合
 同住吉社歌合 同建春門院北面歌合 承安廣田社歌合 同新羅社歌合
 安元右大臣家歌合 治承加茂社歌合 同廿二番歌合 同右大臣家歌合
 建久若宮社歌合 同民部卿家歌合 正治御室撰歌合 同仙洞十人歌合
 建仁老若歌合 同新宮撰歌合 同影供歌合 同院撰歌合
 同鳥羽城南寺影撰歌合 同水魚瀨釣殿歌合 同志十五首歌合 同櫻宮歌合
 同八幡宮若宮撰歌合 元久北野宮歌合 建永卿相待臣歌合 同架茂御祖社歌合
 同別雷社歌合 建曆歌合 同十三夜歌合 同仙洞歌合

建保林示裏歌合 同八月十六日歌合 同九月盡日歌合 同四十五番歌合
 同六月十一日歌合 同百番歌合 同八月廿二日歌合 同月廿四日歌合
 同四月廿日歌合 同八月十五夜歌合 同前園白家歌合 同四十番歌合
 同十一月四日歌合 同二月十一日歌合 同月十二日歌合 寬喜名清水若宮歌合
 負永攝政家歌合 同名所月歌合 嘉禎遠島御歌合 寬元河合社歌合
 宝治院歌合 建長影供歌合 文永八月十五夜歌合 同龜山殿歌合
 建治攝政家歌合 心應卅番歌合 永仁八月十五夜歌合 同當座卅番歌合
 正安伊勢新名所歌合 同當座歌合 乾元仙洞歌合 同五月四日歌合
 嘉元永福門院歌合 同十八番歌合 元亨外宮比御門歌合 貞治新玉津島歌合
 天授五百番歌合 應永內裏歌合 室德仙洞歌合 同百番歌合
 康心內裏歌合 文明親長卿家歌合 同江戶歌合 同七月七日七首歌合
 同廿一番歌合 同九月盡歌合 同將軍家歌合 同十五番歌合
 同殿中十五番歌合 文龜卅六番歌合 大水壱川親孝家歌合 永祿八月十五夜三首歌合
 同秋十五番歌合 文祿後陽成院歌合 近江御息所歌合 源順馬毛名歌合

一條大納言家歌合 西國受領歌合 經平大貳家歌合 源大納言師房卿家歌合
播磨守兼房家歌合 禊子內親家更申夜誓 同櫻柳歌合 同夏歌合
山家三番歌合 國信卿家歌合 雪庵寺結縁経後宴誓 為兼卿家歌合
傾阿判卅番歌合 公武歌合 武家歌合 心廣判地下歌合
前十五番歌合 後十五番歌合 時代不同歌合 新時代不同歌合
定家隆五十番歌合 建長兩窓歌合 弘長卅六人歌合 女房卅六人歌合
御裳濯河歌合 宮河歌合 慈鎮和尚自歌合 知家卿自歌合
後京極殿御自歌合 後鳥羽院御自歌合 定家卿自歌合 家隆卿自歌合
隆祐朝臣自歌合 永福門院御自歌合 慈照院殿御自歌合 亮孝法印自歌合
道堅法師自歌合 豐原統秋自歌合 十市遠忠自歌合 細川高國朝臣自歌合
元久詩歌合 建保詩歌合 建治現存卅六詩誓 康永詩歌合
守遍詩歌合 文安詩歌合 文明詩歌合 同將軍家詩歌合
寬平菊合 上東門院菊合 朱雀院女即元合 康保內裏前裁合
東三條院撫子合 後冷泉院根合 郁芳門院根合 仲実朝臣女子根合

圓融院扇合 堀川院艶書合 心子內親王繪合 五番何曾合
三番何曾合 頭昭陳狀 蓮性陳狀 土御門院御集
後崇光院御集稱法王集 元良親王御集 宗尊親王御集稱聖王集 宗良親王御集稱孝子集
西宮左大臣御集 鎌倉右大臣御集 常徳院御集 人磨卿集
家持卿集 兼輔卿集 敦忠卿集 朝忠卿集
師氏卿集 朝光卿集 公任卿集 定頼卿集
俊忠卿集 雅兼卿集 成通卿集 實國卿集
資賢卿集 長方卿集 為重卿集 為廣卿集稱清玉集
為和卿集 言繼卿集 雅經卿集稱明日香集 雅有卿集稱清世集
輔親卿集 行宗卿集 顯季卿集 顯輔卿集
頼政卿集 紀貫之集 在原業平朝臣集 藤原敏行朝臣集
源宗千朝臣集 源公忠朝臣集 太皇臣頼基朝臣集 猿丸丈夫集
紀友則集 坂上是則集 藤原清心集 藤原元真集
源信明朝臣集 藤原義孝集 藤原仲文集 源順集

大中臣能宣朝集 清原元輔集 平兼盛集 藤原文方朝臣集
 藤原高光集 藤原相如集 源重之集 藤原長能集
 源兼澄集 源道濟集 橘為仲朝臣集 藤原顯綱朝臣集
 源賴實集 津守國基集 源俊賴朝臣集 藤原為忠朝臣集
 菅原在良朝臣集 藤原基俊集 藤原清輔朝臣集 源師光集
 源有房朝臣集 平忠度朝臣集 惟宗廣言集 鴨長明集
 藤原隆信朝臣集 藤原隆祐朝臣集 藤原光經集 源高範集
 平常緣集 源資持集 源直朝集 山邊赤人集
 凡河內躬恒集 藤原興風集 壬生忠峯集 壬生忠見集
 曾根好忠集 櫻井基佐集 覺性法親王御集 守覺法親王御集
 遍昭僧心集 源賢法師集 夢窓國師集 慶運法師集
 竟孝法師集 素性法師集 惠慶法師集 安法法師集
 登蓮法師集 俊惠法師集 寂然法師集 寂蓮法師集
 兼好法師集 元可法師集 宗祇法師集 嘉喜門院御集

齋宮女御集 經信卿母集 俊成卿女集 小野小町集
 檜垣姬集 本院侍從集 小馬命婦集 馬内侍集
 伊勢集 中務集 賀茂保憲女集 小大召集
 清少納言集 紫式部集 和泉式部集 相模集
 赤染衛門集 伊勢大輔集 康次貝王母集 辨乳女集
 出羽辨集 祐子内親王家紀伊集 二條大皇太后宮大貳集
 待賢門院堀川集 二條院讚岐集 小侍從集 建禮門院左京大夫集
 中殿御會部類記 晴御會部類記 貞治六年中殿御會記
 柿本朝臣九勘文 柿本影供記 柿本講式 柿本寺九像彩色勸進帳
 菅家萬葉集 古今和歌集目錄 鏡照古今集序註 古今集童蒙抄
 僻案抄 三代集間事 拾遺抄註 難後拾遺
 散木集 藏玉和歌集 悅目抄 後鳥羽院御口傳
 夜鶴抄 愚問賢註 近來風體抄 和歌九品
 歌仙落書 續歌仙落書 俊成卿正治奏狀 定為法印申文

為無名書目
了俊辨要抄
兼載雜談
愚秘抄

長明魚名抄
落書露頭
西公談抄

并蛙眼目
徹書記物語
桐火桶
三五記

余了俊和歌野不審條
東野州聞書

卷第三百三至卷第三百六
老のよの依美 若州山
漢和法式

連歌部 四卷
老乃久理言
連歌新式

卷第二百七至卷第二百九
伊勢物語 朱雀院塗籠御本
住吉物語
無名草子
源氏心久良邊
原中最秘抄

秋夜長物語
物語百番歌合
伊勢物語知見抄
弘安源氏論義

物語部 十三卷
大和物語
鳥部山物語
源氏狹衣歌合
源氏物語集入
仙源抄

竹取の物語
松穂物語
物語十二番女合
此系明抄
源語秘訣

雨夜談抄

卷第三百二十至卷第三百二十六
和泉式部日記
中務内侍日記
土佐日記
後鳥羽院熊野御幸記
源親行紀行
小島乃口須依美
奈具斜久草
富士御覽記
心廣日記
廻國雜記
長崎子九州道記

紫式部日記
堯孝日記
廬主
源光行海道記
轉寢記
宝篋院殿住吉詣記
伊勢紀行
富士歷覽記
平安紀行
通遙院殿高野茶話
尊海僧正紀行

日記部 七卷
讚岐典侍日記
玄與日記
紀行部 十四卷
更科日記
道範阿南梨南海流浪記
十六夜日記
道行物語
富士紀行
善光寺紀行
宗祇筑紫道記
称名院殿吉野詣記
北条氏康武藏野紀行

辨内侍日記
宗長年記
高倉院嚴島御幸記
都乃津登
鹿苑院殿嚴島詣記
覽富士記
藤川記
北國紀行
玄旨法印九州道記
玄旨法印東國陣道記

蒲生氏純紀行 宗長東路乃流記 紹巴富士見記 東國紀行

卷第三百四十一至卷第三百五十二 管絃部 十二卷 龍鳴抄 懷竹抄

胡琴教錄 舞樂要錄 雜秘別錄 舞曲口傳

夜鶴庭訓抄 殘夜抄 絲竹口傳 木師抄

秦箏血脉 琵琶血脉 琵琶合 八音抄

東遊歌 風俗歌 神樂歌註秘抄 催馬樂註秘抄

新撰朗詠集 梁塵秘抄口傳集 蹴鞠部 二卷

卷第三百五十三至卷第三百五十九 貞治二年御鞠記 亨德二年暗御鞠記 後鳥羽院御記

成道卿口傳 蹴鞠略記 蹴鞠肝要抄 遊庭秘抄

卷第三百五十六至卷第三百五十七 鷹鳥部 二卷 養鷹記

新修鷹經 嵯峨野物語 白鷹記 後京極殿鷹三百首 定家卿鷹三百首

西園寺殿鷹百首 根津松鷗軒記 遊戯部 六卷 魚久佐濃多稱

卷第三百五十八至卷第三百六十三 薰集類抄 後伏見院宸翰薰物方 園基口傳

五月兩日記 志野宗信家名香合名香目錄 園基式 御餘記

作庭記 洛陽田樂記 文安田樂能記 紉河名勸進猿樂日記

同勸進申樂記 粟田口猿樂記 飲食部 五卷 武家調味故實

卷第三百六十四至卷第三百六十八 厨事類記 世俗立要集 四條流庖丁書 契茶養生記

大草預料理書 庖丁聞書 六草相傳聞書 契茶往來 酒食論

北野大茶湯記 合戰部 二十卷 陸奧話記 後三年合戰記

卷第三百六十九至卷第三百九十九 將門記 糸友進討記

書部六

承久記 梅松論

應永記一名大内義隆退治記

文正記 應仁記

永祿記 豐鑑

大和記 勢州四家記

結城戰場物語 永亨記

深谷記 鶴其前記

鹿島治乱記 江濃記

箕輪記 蘆名記

柴田退治記 富樫記

末森記 赤松記

大内義隆記 中國治乱記

十河物語 豫章記

難太平記 上月記

伯耆卷

嘉吉記

應仁略記

細川兩家記一名三川分流記

鎌倉大草紙

豆相記

鶴臺後記

江北記

蒲生氏郷記

小松記

赤松再興記

河州將裔記

大友興廢記一名九州治乱記

荒木略記

明德記

長祿寬正記

應仁別記

關東兵乱記

河越記

房總治乱記

舟田乱記

伊達政宗記

荒山合戰記

別所長治記

二好別記

親房卿關城書

吉野事書案 阿蘇惟澄申狀 菊池武朝申狀 上杉輝虎注進狀

豐臣大臣御事書 沙弥洞然長狀 武家部 二十五卷

卷第四百至卷第四百二十四 負永式目追加 建武式目追加

侍所沙汰篇 政取壁書 大内家壁書 北條早王廿一箇條

武田信玄百箇條 朝倉敏景十七箇條 長曾我部元親百箇條 鹿苑院殿御元服記

普廣院殿御元服記 光源院殿御元服記 常德院殿御乘馬始記

室篔院殿將軍宣下記 普廣院殿任大臣即會次第

同御拜賀次第 同大將御拜賀雜事 鹿苑院殿御直衣始記

長祿二年已後申次記 殿中申次記 羊中定例記 正月御事始記

成氏朝臣年中行事 飯屋宅御成記 畠山亭御成記 祇園會御見物御成記

伊勢亭御成記 三好亭御成記 朝倉亭御成記 前田亭御成記

文祿四年御成記 諸倉衆御成申入記 供立日記 御供故實

走後故實 大内府各 奉公覺悟記 了俊大雙紙

宗五... 簾中舊記 上臈名事 嫁入記

嫁迎記 七量物 射礼私記 大的體拜記

流鏑馬次第 笠掛記 鹿足記 大連物目安

騎射秘抄 八廻日記 出法師落書 高忠聞書

家中竹馬記 土岐家聞書 大開記 狩詞記

空穗次第 隨兵日記 隨兵次第 軍陣聞書

築城記 御産所日記 産所記 建治三年記

文明十一年記 六波羅下知 攝津親秀護狀 齋藤親基日記

御隨身三上記 諸家紋帳 義貞記 武器要説

馬具寸法記 卷第四百二十五至卷第四百四十五 釋家部 二十一卷

釋家初例抄 釋家官班記 太神宮御相傳如表波記 石清水不断念佛縁起

加茂櫻會縁起 春日社二十講最初御願文 圓融院御授戒記

後宇多院御灌頂記 承久三年七佛藥師御修法記 後嵯峨院宸筆御八講記

同假字記 延徳御八講記 和々言の所は 雲井乃所は

後土御門院十三回聖忌記 奥山乃所は 後光嚴院二十三回聖忌記

仁和寺諸堂記 廣隆寺来由記 清永寺縁起 醍醐寺縁起

安樂光院記 楞伽寺記 勸修寺縁起 般舟三昧院記

南禅寺記 資聖禅寺造堂記 東福紀年録 萬壽寺禅寺記

鹿王院記 尊勝寺供養記 法勝寺供養記 龜量寿院供養記

法成寺金堂供養記 同藥師堂供養記 東北院供養記 應徳東寺塔供養記

建武元年東寺塔供養記 相國寺供養記 同塔供養記

大安寺伽藍縁起并流記資財帳 同寛平縁起 藥師寺縁起

東大寺大佛記 同造立 同養記 同金銅記文 興福寺縁起

多武峰縁起 同略記 長谷寺縁起 當麻寺縁起

觀心寺縁起実録帳 山門堂社記 叡岳要記 九院佛閣抄

延暦中堂供養記 天元月付供養記 永正同供養記 弘安大講堂供養記

書目録 百部六

木下川藤師傳縁起 日光山中禪寺本言 讚岐國白峯寺縁起 筑前國聖福寺佛殿記
永正十年高野山壇上記 近江國金勝寺官符 佛牙舍利記 鹿王院如意宝珠記
二荒山十部會縁起 日光山三月會縁起 慈惠大僧正遺告 阿弥陀院室物帳
觀世音寺資財帳 左記 右記 鶴岡執行珍祐法印記
發心和歌集 法文百首和歌

卷第四百四十六至卷第五百三十 雜部 八十四卷

古語拾遺 日本靈異記 新撰姓氏錄 大鏡裏書
康平記 宇槐雜抄 達幸故実抄 天慶二年記
永久元年記 醍醐寺雜事記 仁和寺日次記 文保三年記
元弘元年鎌原渡御記 光明寺殘篇 關城書裏書
建武記 鳩嶺雜事記 祇園執行日記 醍醐雜抄
後奈良院御記 御湯殿上日記 保曆間記 花營三代記
如是院年代記 編記 革命勘文 諸道勘文 殘缺
長寛勘文 法曹日類林 殘缺 濫觴抄 代始和抄

禁秘御抄名建曆 禁掖秘抄 名目抄 世俗淺深秘抄
類聚雜要抄 桃華藥葉 弘安禮節 二判問答
三内口訣 大饗畧次第 大饗御裝束間事 大饗良雜事

嘉禎二年六月大饗良次第 建長六年十二月大饗良次第

十七箇條憲法 建曆三年新制廿箇條 清行朝臣意見十二箇條

文時卿封事三箇條 寛平御遺誠 九條殿遺誠 澁柿
竹馬抄 小夜の寢覚 文明一統記 雅談治要
乳母の文 乳母巾紙 身の形見 慈元抄

清少納言批草紙墨本 隆房卿艶詞 長明方丈記 頓阿十樂菴記
肖柏夢菴記 同三愛記 宗長宇都山記 松名院右府三塔巡礼記

同石山月見記 東光院嵯峨記 尊朝法親王唐崎松記 玄上法印夢想記
こゝろ衣 多武峰少将物語 鳴門中将物語 時秋物語
今物語 野守鏡 吉野拾遺 江談抄

續古事談 東列隨筆 大槐秘抄 ねりひの日記

真俗式談記 鑿鑿斷餘 門室有職抄 海人藻芥
 駿牛繪詞 國牛十圖 伊行朝臣夜鶴抄 才葉抄一名筆體抄
 入木抄 仁和寺書籍目錄 信西藏書目錄 文和仙洞御書目錄
 點圖部類 大和假名及切義辭 桂林遺芳抄 新撰字鏡
 中正子 出雲風土記 豊後風土記 對馬國貢銀記
 多氣窓堂 駿河風土記 安東郡專當沙汰文
 康正二年造内裏段錢國役引付 東北院職人歌合 鶴岡放生會職人歌合
 三十六番職人歌合 七十一番職人歌合 十二類歌合 調度歌合
 永正狂歌合 常盤姬物語 精進魚類物語 柿本氏系圖
 後奈良院御撰何曾公武大體略記 世諺問答 曆林問答
 紹運要略 立坊次第 女后名字抄一名貴 女院記
 謚號雜記一名船水 曆名土代 御評定着座次第 永正以來御番帳
 文安年中御番帳 永祿六年諸役人附 長亨元年江州御動座在陣衆着到
 東大寺奴婢籍帳 常樂記 近江國番場宿蓮華寺過去帳

相模國鎌倉松岡過去帳 常陸國六段田村六地藏寺過去帳
 同國田島村和光院過去帳 類聚雜例 高倉院日升殿記
 四條院御葬禮記 龜山院御葬禮記 伏見院御中階記 後老巖院御佛事記
 後小松院崩御記 山乃霞 山賤記 後奈良院御拾骨記
 新待賢門院七忌御願文 鹿苑院殿葬記 同追善記
 鹿苑院殿葬記 總見院殿追善記 朝乃雲 常徳院殿葬記 萬松院殿穴太記
 吉事次第 吉事畧儀 宇奈比松 宗祇終焉記
 文保記 永正記 贈官位宣旨記 諸陵雜事
 女御産部類記 中宮御産部類記 治承二年中宮御産記 春榮院御百日記
 延慶四年新院姬宮御行始記 北山女院御入内記 安元御賀記
 俊成卿九十賀記 称名院右府七十賀記 清輔朝臣尚書會記
 己上一千二百七十三部

按本邦古來事典の大部なりものハ滋野貞主の秘府略千卷
 和音部六 百二十三

